

第63回

定時株主総会 招集ご通知

日時

2025年6月20日（金曜日）午前10時
（午前9時30分受付開始予定）

場所

神奈川県横浜市西区みなとみらい
二丁目2番1号
ランドマークプラザ5階
ランドマークホール

議決権行使期限

2025年6月19日（木曜日）
午後6時30分まで

議決権行使をいただいた株主様には後日、
心ばかりの品をお送りいたします。

Nojima

証券コード：7419

目次

第63回定時株主総会招集ご通知

- 事業報告
- 連結計算書類

株主総会参考書類

事業報告及び連結計算書類については、
電子提供措置により当社ウェブサイト
及び東証ウェブサイトに掲載しております。



パソコン・スマートフォン・
タブレット端末からも
ご覧いただけます。
<https://s.srdb.jp/7419/>



招集ご通知

証券コード 7419

2025年 6 月 5 日

(電子提供措置の開始日 2025年 5 月 29 日)

株 主 様 各 位

横 浜 市 西 区 南 幸 一 丁 目 1 番 1 号

JR 横 浜 タ ワ ー 26 階

(登記上の本店所在地：相模原市中央区横山一丁目1番1号)

株 式 会 社 ノ ジ マ

取締役兼代表執行役社長 野 島 廣 司

第63回定時株主総会招集ご通知

拝啓

日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社第63回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご通知申し上げます。

本定時株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイト「第63回定時株主総会招集ご通知」及び「その他の電子提供措置事項（交付書面省略事項）」として電子提供措置事項を掲載しております。

当社ウェブサイト

<https://www.nojima.co.jp/ir/annualmeeting/meeting/>



また、電子提供措置事項は、上記ウェブサイトのほか、東京証券取引所（東証）のウェブサイトにも掲載しておりますので、以下の東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）にアクセスし、銘柄名（会社名）又は証券コードを入力・検索し、「基本情報」、「縦覧書類／PR情報」を選択のうえ、ご確認くださいようお願い申し上げます。

東証ウェブサイト（東証上場会社情報サービス）

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



当日ご出席願えない場合は、書面又は電磁的方法（インターネット等）により議決権を行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討のうえ、2025年 6 月 19 日（木曜日）午後 6 時 30 分までに議決権を行使してくださいようお願い申し上げます。

なお、議決権行使をいただいた株主様には後日、心ばかりの品をお送りいたします。

ご自宅からでも株主総会の様子をご覧いただけるよう、株主様には本株主総会の状況についてインターネットにてライブ中継をいたしますので併せてご利用ください。

敬具

記

1. 日 時 2025年6月20日（金曜日）午前10時（午前9時30分受付開始予定）

2. 場 所 神奈川県横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
ランドマークプラザ5階 ランドマークホール
（末尾の株主総会会場ご案内図をご参照ください。）

3. 目的事項

報告事項 第63期（2024年4月1日から2025年3月31日まで）事業報告、計算書類及び連結計算書類の内容並びに会計監査人及び監査委員会の連結計算書類監査結果報告の件

決議事項

第1号議案 定款一部変更の件

第2号議案 取締役14名選任の件

4. 議決権行使に関する事項

- （1）当日ご出席の際は、同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出ください。また、議事資料として、この「招集ご通知」をご持参くださいますようお願い申し上げます。
なお、議決権行使書用紙をご持参いただいても、株主様ではない代理人あるいは同伴の方など、議決権を行使することができる株主様以外の方はご入場いただけませんので、ご理解賜りたく存じます（ただし、お体の不自由な株主様の同伴の方、盲導犬、聴導犬及び介助犬等をご入場いただけます）。
- （2）議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。
- （3）同一の株主様が書面及び電磁的方法の双方により議決権行使を行った場合は、電磁的方法による議決権行使を有効なものとしてお取り扱いします。なお、同一の株主様が複数回電磁的方法による議決権行使を行った場合は、最後に行われたものを有効な議決権行使としてお取り扱いします。
- （4）株主総会にご出席いただけない場合、議決権を有する他の株主様1名を代理人として株主総会にご出席いただくことが可能です。ただし、代理権を証明する書面のご提出が必要となりますのでご了承ください。

5. その他本招集ご通知に関する事項

- (1) 電子提供措置事項のうち、次の事項につきましては、法令及び当社定款第15条の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面には記載しておりません。したがって、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面は監査報告を作成するに際し、監査委員会及び会計監査人が監査をした対象書類の一部であります。
- ①連結計算書類の連結注記表
 - ②計算書類の貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、個別注記表、計算書類に係る会計監査報告、監査委員会の監査報告
- (2) 電子提供措置事項に修正が生じた場合は、当社ウェブサイト及び東証ウェブサイトに修正内容を掲載させていただきます。

以 上

株主様向けのインターネット中継

第63回定時株主総会の模様についてインターネットにてライブ中継を実施いたします。

公開日時：2025年6月20日（金曜日）午前10時から事業説明会終了まで

※株主総会の開始は午前10時からとなりますが、開始30分前よりアクセスは可能になります。

視聴方法：株主総会ライブ中継サイトにアクセスいただきますと、株主様の認証画面が表示されますので、下記に「ユーザー名・パスワード」を入力の上、ご覧ください。

株主総会ライブ中継は当社ホームページよりご案内いたします。

https://questant.jp/q/3VV5ROR2_20250620_nojima_login

ユーザー名： パスワード：



【留意点】

- ・株主総会の視聴に当たりましては、ご使用のパソコンやスマートフォン等の環境（機能、性能）やインターネット接続の回線状況、多数の株主様のアクセス集中等により、映像や音声に不具合が生じる場合がございます。また、ご覧いただくためのプロバイダーへの接続料金及び通信料金（電話料金）などは、株主様のご負担になります。
- ・株主様のプライバシーに配慮いたしまして、中継の映像は、議長席及び役員席付近のみとさせていただきますが、やむを得ず映り込んでしまう場合もあります。あらかじめご了承ください。
- ・インターネットにてライブ中継をご覧いただくことは、会社法上、株主総会への出席とは認められません。そのため中継を通じての議決権行使及び質疑はできかねますので、議決権行使はあらかじめ議決権行使書による書面での行使又は、スマートフォンなどでインターネットにより事前に行使いただきますようお願い申し上げます。
- ・また、各種タブレット、スマートフォンの機能によっては中継がご覧いただけないこともございますので、あらかじめご了承ください。

〈株主様へ〉

・第63回定時株主総会に関する報告事項及び決議事項につきまして、株主様から事前にご質問をお受けいたします。

ご質問がございます株主様は、当社ウェブサイトより議決権行使書に記載の株主番号等をご入力の上、ご質問くださいますようお願い申し上げます。

・株主の皆様のご関心が高い事項については本株主総会で説明を予定しておりますが、全てのご質問の回答をお約束するものではございませんので、あらかじめご了承ください。

事業説明会 開催のご案内

定時株主総会終了後、引き続き株主総会会場におきまして、株主様に当社へのご理解を深めていただくため、「**事業説明会**」を開催いたします。お時間の許す株主様には定時株主総会とあわせてご参加、又はウェブサイトでのご視聴を賜りますようご案内申し上げます。

なお、「**事業説明会**」においてはお食事等のご用意はございませんので、あらかじめご了承ください。



パソコン・スマートフォン・
タブレット端末からも
ご覧いただけます。
<https://s.srdb.jp/7419/>



<インターネットによる議決権行使のお手続きについて>

インターネット等による議決権行使のご案内

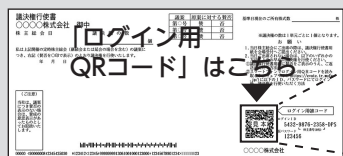
インターネットによる議決権行使は、スマートフォンまたはパソコンから議決権行使ウェブサイトへアクセスいただき、画面の案内に従って行使していただきますようお願いいたします。

議決権行使期限

2025年6月19日（木曜日）
午後6時30分まで

 **スマートフォンの場合** **QRコードを読み取る方法**
「ログイン用QRコード」を読み取りいただくことで、「ログインID」および「仮パスワード」が入力不要でログインいただけます。

1. QRコードを読み取る



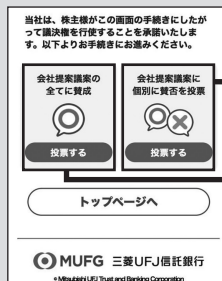
議決権行使書副票（右側）

お手持ちのスマートフォンにて、同封の議決権行使書副票（右側）に記載の「ログイン用QRコード」を読み取る。



2. 議決権行使方法を選ぶ

議案賛否方法の選択画面が表示されるので、議決権行使方法を選ぶ。



3. 各議案の賛否を選択



画面の案内に従って各議案の賛否を選択

画面の案内に従って行使完了です。

※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

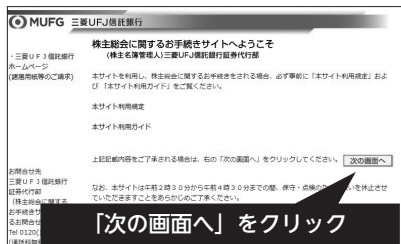
機関投資家の皆様へ

株式会社ICJが運営する議決権行使プラットフォームのご利用を事前に申し込まれた場合には、当該プラットフォームにより議決権をご行使いただけます。

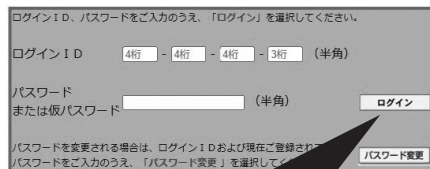


ログインID・仮パスワードを入力する方法

1. 議決権行使ウェブサイト にアクセスする



2. お手元の議決権行使書用紙の 副票（右側）に記載された「ログイン ID」および「仮パスワード」を入力



以降は画面の案内に従って賛否を
ご入力ください。

議決権行使ウェブサイト
<https://evote.tr.mufg.jp/>



ご注意事項

- 株主様以外の第三者による不正アクセス（“なりすまし”）や議決権行使内容の改ざんを防止するため、「仮パスワード」は議決権行使サイト上で任意のパスワードへの変更が可能です。
- 株主総会の招集の都度、新しい「ログインID」及び「仮パスワード」をご通知いたします。
- 複数回にわたり行使された場合の議決権の取り扱い
 - (1) 郵送とインターネットにより重複して議決権を行使された場合は、インターネットによる議決権行使の内容を有効として取り扱っていただきますのでご了承ください。
 - (2) インターネットにより複数回にわたり議決権を行使された場合は、最後に行使された内容を有効とさせていただきます。またパソコン、スマートフォンで重複して議決権を行使された場合も、同様に最後に行使された内容を有効とさせていただきます。
- 議決権行使サイトへのアクセスに際して発生する費用（インターネット接続料金等）は、株主様のご負担となります。

【議決権行使サイトの操作方法に関する お問い合わせについて】

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部



0120-173-027

（通話料無料、受付時間：9：00～21：00）

1. 企業集団の現況

(1) 当連結会計年度の事業の状況

① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国の経済は、一部に足踏みが残るなか、緩やかな回復が期待されます。しかし、物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響や、アメリカの政策動向による影響等がわが国の景気を下押しする可能性もあり、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があります。

このような中でノジマグループは、デジタル商品やサービスを通して社会に貢献することを志に掲げ、各事業が互いにシナジーを発揮しながら、お客様の心に寄り添った「コンサルティングセールス」をはじめとする取り組みを進めてまいりました。1月にはPCメーカーであるVAIO(株)（以下、VAIO）が、新たにグループ入りいたしました。

グループとしての業績は順調に推移しており、当連結会計年度における売上高は853,427百万円（前年同期比112.1%）、営業利益は48,371百万円（前年同期比158.3%）、経常利益は51,197百万円（前年同期比155.4%）、親会社株主に帰属する当期純利益は32,292百万円（前年同期比161.6%）となり、売上高と営業利益については過去最高値を更新しました。

また、当社グループの経営指標として重要視しておりますEBITDA（※）は、74,252百万円（前年同期比129.0%）となり、こちらも過去最高となっております。

（※）EBITDA＝経常利益＋支払利息＋社債利息＋減価償却費＋のれん償却額－持分法による投資損益

セグメント別の状況は以下のとおりです。

なお、当連結会計年度においてVAIO及びVJホールディングス3(株)を連結の範囲に含めたことに伴い、従来の報告セグメントに「プロダクト事業」を追加しております。

（デジタル家電専門店運営事業）

家電小売業界の動向として、直近では需要の持ち直しの動きが見られるものの、業界全体としては売上が横ばいに推移しております。このような中で当社はお客様のニーズに合わせた「コンサルティングセールス」を続けてまいりました。

当社は2024年8月に創業65周年、12月に上場30周年を迎え、お客様への感謝をこめて周年セールを開催いたしました。また、携帯電話部門において、従業員起案のアイデアによるオペレーションの改善が進み、端末台数の伸びが第2四半期以降の全体の売上高伸長に寄与しております。

当社では、従業員が働きがいや幸福を感じられることを重要視しており、2025年1月より3年連続1万円のベースアップ、4月からの初任給は業界最高水準の30万円とすることを発表し、さらに物価上昇を鑑み追加で7千円のベースアップを行うことを決定いたしました。また、ご来店いただいたお客様のお買い物により快適なものとなるよう、DXへの投資も進めてまいりました。

店舗については、東京都・神奈川県を中心としたドミナント展開を行いながら、小型店舗の出店や既存店舗面積の適性化を行うなど、お客様のいらっしゃる地域へ、お客様に喜ばれる形での出店を進めております。

これらの結果、売上高は301,972百万円（前年同期比112.8%）、経常利益は20,092百万円（前年同期比125.8%）となり、売上高は過去最高値を更新しました。

(キャリアショップ運営事業)

キャリアショップ業界においては、顧客拡大・顧客維持の方針のもと、新しい価値の創出によってお客様の生活をより豊かにする動きが見受けられます。ドコモでは、『eximoポイ活プラン』、『dカード PLATINUM』の提供開始など、各分野とのシームレスな連携を図っております。顧客拡大に向け、各社乗り換えによる指標に注力し、ショッピングモールなどでの出張販売からお客様との接点の増加を図りました。当社グループにおいては、お客様の立場に立ったアイデアを出し、お祭りイベントや出張スマホ教室を開催してまいりました。

これらの結果、売上高は367,764百万円（前年同期比106.1%）、経常利益は19,218百万円（前年同期比228.0%）となり、売上高と経常利益について過去最高値を更新しました。

(インターネット事業)

生活に欠かせないインフラとして、超高速ブロードバンドサービスがより多くの役割を果たす中で、ニフティ㈱は「お客様に最も近く感動されるISP」を目指し、さまざまな取り組みを進めてまいりました。

お客様に直接ご連絡することで「生」の声をお聴きし、特に工事開通後のお悩みが多いことから、お客様のネットワーク環境を調査・理解するためのツールの開発を進めております。

一方㈱セシルは、お客様の声から「お客様に寄り添った商品づくり」に取り組んでおります。商品構成においては、感動もお得感も得られるラインナップによって、受注数量を伸長させることができました。商品の欠品や在庫金額の適正化といった課題に対し、これからも改善に向けた取り組みを続けてまいります。

これらの結果、売上高は70,334百万円（前年同期比105.9%）、経常利益は6,187百万円（前年同期比114.7%）となりました。

(海外事業)

海外事業については、2023年7月度にて買収をしたThunder Match Technology Sdn. Bhd. (以下、TMT) が、当期においては通期にて海外事業セグメントへ貢献しております。

今期シンガポールでは、従来のお客様とは異なる顧客層へもCOURTSとしてのサービスを届けるべく、新たに提携クレジットカードの取り組みを開始しました。またマレーシアでは、今までアプローチできなかったイスラムのお客様に対してクレジット販売を提供できるIslamic Financeの資格を取得し、COURTSの強みである自社割賦のクレジット販売をより強化できる環境を推進してまいりました。店舗については、第3四半期末には、シンガポールの旗艦店となるMegastore店の改装を完了し、またマレーシアのTMTにおける最大規模の旗艦店となるSunway Pyramid店をオープンするなど、新たな地域における顧客の獲得に向け、商品を体感できる店舗づくりを推進しております。

これらの結果、売上高は81,359百万円（前年同期比117.2%）、経常利益は953百万円（前年同期は経常損失329百万円）となり、売上高について過去最高値を更新しました。

(金融事業)

1月に一時的に円高となった米ドル／円相場は、FOMCで政策金利が据え置かれたため155円前後を維持し、2月に入ると、米国の関税政策やウクライナ情勢など不透明感の強い世界情勢も意識されて円高傾向が継続、3月には米国の景気減速懸念や日銀の追加利上げ観測から146円台まで進みました。

このような中、ショック相場に強くFX初心者でも運用しやすい当社独自の運用手法である「トラリピ」のサービス拡充を図ってまいりました。「トラリピ世界戦略」と称し、トラリピが得意とする、レンジ相場を形成しやすい通貨ペア「豪ドル／NZドル」「ユーロ／英ポンド」「米ドル／カナダドル」「ノルウェークローネ／スウェーデンクローナ」への分散投資を推進いたしました。3月にはトラリピがトレンド相場を追従する「レンジシフト」機能を追加し、より幅広い場面でのトラリピの活用を提案しております。

これらの結果、売上高は5,285百万円（前年同月比87.9%）、経常利益は1,153百万円（前年同月比64.3%）となりました。

(プロダクト事業)

2025年10月のWindows 10の延長サポート終了に向けPCの買い替え需要が生じ、PC市場は成長基調に転じています。こうした中で、VAIOは市場の成長率を上回るペースで販売実績が伸長しております。その背景として、売上の9割近くを占める法人向けPC事業において、直接商流・間接商流それぞれの販売が大変好調であり、2024年10月に発表したハイエンド向けモバイルPC「VAIO Pro PK-R」も、既に1,000台規模での導入が多く、多くの企業で続々と進んでおります。

VAIOは商品理念である「カッコイイ」「カシコイ」「ホンモノ」を体現し、厳しい品質チェックをクリアした高性能・高品質の製品を、長野県の安曇野本社工場から産み出し続けており、ノジマ店舗での販売拡大やコネクシオ㈱等との法人顧客の開拓に向けた協業も開始しております。

これらの結果、当社グループ入り後の2025年1月～3月売上高は17,699百万円、経常利益は854百万円となりました。

(その他)

セグメント情報のその他の中でも主要な事業としては、AXN㈱が属する有料衛星放送事業となっており、AXN㈱は「魅力ある映像コンテンツとの出会いを通じて、感動と新たなライフスタイルをお届けする」を理念に掲げ、専門性の高い5つの有料チャンネルを運営しております。今期はイベントやコンテンツ制作などの関連事業の展開を通じて、お客様へ上質なエンタテインメント＆カルチャーをお届けすることに取り組んでまいりました。

2024年4月にグループ入りした㈱アニマックスブロードキャスト・ジャパン及び㈱キッズステーションでは、拡大するアニメ市場とのシナジー創出を図り、より多くのお客様に喜ばれる番組編成を進めてまいりました。また、放送に関連したイベントコンテンツ事業にも取り組み、他社にないオリジナルコンテンツの強化と放送に付随する事業の拡大を図りました。

これらの結果、有料衛星放送事業についての売上高は12,048百万円、経常利益は1,873百万円となり、売上高と経常利益について過去最高値を更新しました。

(店舗運営の状況)

デジタル家電専門店運営事業では、スクラップアンドビルドにより、デジタル家電専門店16店舗を新規出店、6店舗を閉店し231店舗となり、通信専門店は1店舗を譲受、2店舗を閉店・譲渡し17店舗となりましたので、合わせて248店舗となりました。

キャリアショップ運営事業では、直営店・F C店を合わせて、スクラップアンドビルドにより、14店舗を新規出店・譲受、39店舗を閉店・譲渡し、935店舗となりました。

海外事業では、スクラップアンドビルドにより、8店舗を新規出店、10店舗を閉店し、114店舗となりました。

以上の結果、当連結会計年度末における総店舗数は1,297店舗となりました。

② 設備投資の状況

当連結会計年度において実施いたしました設備投資の総額は11,726百万円で、その主なものは次のとおりであります。

(株)ノジマ

設 備 名	所在地	内 容	開店日・取得日
アリオ蘇我店	千葉県	店舗	2024年5月
イオンノア店	千葉県	店舗	2024年5月
エミテラス所沢店	埼玉県	店舗	2024年9月
イオンモール津田沼店	千葉県	店舗	2024年10月
LICOPA東大和店	東京都	店舗	2024年11月
イトーヨーカドー三郷	埼玉県	店舗	2025年2月
NEW綾瀬店	神奈川県	店舗	2025年3月

③ 資金調達の状況

当社グループは、運転資金の機動的かつ安定的な調達を可能にするため、主要取引金融機関と当座貸越契約及び財務制限条項が付された貸出コミットメント契約を締結しております。

④ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

(2) 財産及び損益の状況

区 分	第60期 (2022年3月期)	第61期 (2023年3月期)	第62期 (2024年3月期)	第63期 (当連結会計年度) (2025年3月期)
売上高(百万円)	564,989	626,181	761,301	853,427
経常利益(百万円)	35,890	36,246	32,937	51,197
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	25,862	23,315	19,979	32,292
1株当たり当期純利益	522円89銭	238円83銭	203円67銭	334円97銭
総資産(百万円)	326,952	556,902	547,142	623,810
純資産(百万円)	140,101	161,056	178,920	208,307
1株当たり純資産	2,761円22銭	1,596円29銭	1,779円53銭	2,110円39銭

- (注) 1. 1株当たり当期純利益は、自己株式を控除した期中平均発行済株式総数により、1株当たり純資産は、自己株式を控除した期末発行済株式総数により算出しております。
2. 1株当たり当期純利益及び1株当たり純資産の算定上の基礎となる自己株式数に従業員持株ESOP信託口が保有する当社株式を含めております。
3. 2022年10月1日を効力発生日として普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。
4. 第62期連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第61期連結会計年度に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(3) 重要な親会社及び子会社の状況

① 親会社の状況

該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会 社 名	所 在 地	資本金 (百万円)	議決権の 比率	主要な事業内容
アイ・ティー・エックス(株)	横浜市西区	200	100.0%	通信関連機器等販売
ITXコミュニケーションズ(株)	横浜市西区	200	100.0%	通信関連機器等販売
(株)アップビート	横浜市西区	404	100.0%	通信関連機器等販売
コネクシオ(株)	東京都港区	5,336	100.0%	通信関連機器等販売
ニフティ(株)	東京都新宿区	100	100.0%	電気通信事業
(株)セシール	東京都新宿区	100	100.0%	総合通信販売事業
ニフティライフスタイル(株)	東京都新宿区	1,262	65.2%	行動支援サービス事業
Nojima APAC Limited	シンガポール タンピネス	21,725	100.0%	デジタル家電等販売
(株)マネースクエアHD	東京都港区	3,106	97.6%	金融事業を統括する持株会社
VAIO(株)	長野県安曇野市	1,552	94.6%	電気通信機械器具等販売
(株)ノジマステラススポーツクラブ	相模原市南区	10	100.0%	スポーツクラブ運営
(株)ヒューマン・アビリティ・デ ベロップメント	東京都中央区	30	100.0%	企業教育研修コンサルティング
AXN(株)	東京都渋谷区	1	100.0%	有料衛星放送事業

(注) 持分法適用会社は、(株)ハスコムモバイル1社であります。

③ 事業年度末日における特定完全子会社の状況
該当事項はありません。

(4) 対処すべき課題

国内の雇用・所得環境が改善するなかで緩やかな回復が続くことが期待されますが、物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響や、通商政策などアメリカの政策動向による影響等が景気を下押しする可能性があり、今後の経済状況、市場動向に注視が必要な状態が続くと見込まれます。

このような中で当社は「デジタル一番星」と称し、デジタル商品すべてとそれにかかわるサービスを「一番」早く、「一番」親切に、「一番」わかりやすくお届けできるよう、お客様のニーズに合わせた「コンサルティングセールス」を続けてまいります。

当社グループが一丸となってお客様にご支持いただけるよう、当連結会計年度においては「愛ある指摘で理念の浸透・DXでお客様にわくわくをPoOでやり上げよう」をスローガンとし、グループ各社に経営理念を浸透させ、従業員を育成し、DXを推進してまいりました。今後も常にお客様に喜んでいただけるよう、次の3点を重要項目として取り組んでまいります。

① 店舗運営

常にお客様の立場に立った行動で、お客様のご要望に合った商品を取り揃え、そしてお客様が商品を体感し、選びやすいように売り場を作成いたします。そして、お客様が安心して快適にお買い物を楽しめるようDXを企画、使用、改善することを進めてまいります。

② 人材育成

専門知識を有する商品コンサルタントが、真心を込めたサービスとDXを活用した接客で、お客様に喜んでいただけるようにいたします。当社は、このような人材の育成にあたって、各人の接客能力向上、商品知識等の修得を目的として、自己育成用WEBツールの「ノジマ学（まなぶ）」と「ノジマ稽古（けいこ）」を活用して、お客様に喜んでいただける人材育成を引き続き行ってまいります。

③ 店舗展開

お客様にご利用いただきやすい店舗展開を基本として、デジタル家電専門店運営事業は、今後とも東京都・神奈川県を中心として、近隣県に集中的に出店する「ドミナント展開」を行いながら、コンビニエンスストアおよそ2店舗分の面積の小型店舗出店や、既存店舗面積の適性化を行うなど、お客様のいらっしゃる地域へ、お客様に喜ばれる形での出店を進めてまいります。

キャリアショップ運営事業は、アイ・ティー・エックス株式会社やコネクシオ株式会社等、子会社を含めた既存店舗の改装及びスクラップアンドビルドを実施いたします。

そして、海外事業では、現地状況に対応し、条件の良い出店による店舗網の充実に努め、グループ各社がお客様に喜んでいただける環境構築を行ってまいります。

(5) 主要な事業内容（2025年3月31日現在）

当社グループは株式会社ノジマ（当社）、連結子会社36社、非連結子会社4社及び関連会社1社により構成され、経営組織の形態及び当社グループの取り扱う商品・サービスの内容から、報告セグメントを「デジタル家電専門店運営事業」、「キャリアショップ運営事業」、「インターネット事業」、「海外事業」、「金融事業」「プロダクト事業」としております。

「デジタル家電専門店運営事業」は、薄型テレビに代表されるデジタルA V関連機器及び家庭用電化製品の販売とこれらに付帯する配送・工事・修理業務、パソコンに代表されるI T・情報関連機器、家庭用ゲーム関連機器及びソフト等の販売並びにそれらに関するソリューション、セットアップ、修理等のサービス提供を行っております。

「キャリアショップ運営事業」は、携帯電話を中心とした通信関連機器の販売及び付帯するサービス提供を行っております。

「インターネット事業」は、ブロードバンド接続サービスの提供及び付帯するコミュニケーション、セキュリティ等のサービス提供並びにインターネットを利用した様々な情報サービスの提供を行っております。

「海外事業」は、デジタルA V関連機器、情報関連機器、家庭用電化製品及び家庭用家具の販売並びにそれらに関するソリューション、セットアップ等のサービス提供を行っております。

「金融事業」は、店頭外国為替取引や取引所株価指数証拠金取等の金融商品取引サービスの提供を行っております。

「プロダクト事業」は、パソコンの企画、設計、開発、製造および販売と、それに関連するサービスの提供を行っております。

(6) 企業集団の主要拠点等 (2025年3月31日現在)

(株)ノジマ

本社	： 神奈川県横浜市西区	三郷商品センター	埼玉県三郷市
商品センター	： 神奈川県横浜市鶴見区	神奈川開通センター	： 神奈川県横浜市鶴見区

アイ・ティー・エックス(株)

本社 (本店)	： 神奈川県横浜市西区	札幌オフィス	： 北海道札幌市中央区
東日本支社	： 宮城県仙台市青葉区	名古屋オフィス	： 愛知県名古屋市中村区
関西支社	： 大阪府大阪市北区	金沢オフィス	： 石川県金沢市
西日本支社	： 広島県広島市中区	高松オフィス	： 香川県高松市
		福岡オフィス	： 福岡県福岡市博多区

IT X コミュニケーションズ(株)

本社 (本店)	： 神奈川県横浜市西区	名古屋オフィス	： 愛知県名古屋市中村区
東日本支社	： 宮城県仙台市青葉区	金沢オフィス	： 石川県金沢市
関西支社	： 大阪府大阪市北区	高松オフィス	： 香川県高松市
西日本支社	： 広島県広島市中区	米子オフィス	： 鳥取県米子市
		福岡オフィス	： 福岡県福岡市博多区

(株)アップビート

本社 (本店)	： 神奈川県横浜市西区	関西中四国営業部	： 大阪府大阪市北区
東海営業部	： 愛知県名古屋市中区	九州営業部	： 福岡県福岡市博多区

コネクシオ(株)

本社 (本店)	： 東京都港区	北海道支店	： 北海道札幌市東区
東北・北海道支社	： 宮城県仙台市青葉区	北陸支店	： 石川県金沢市
東海・北陸支社	： 愛知県名古屋市中村区	四国支店	： 香川県高松市
関西支社	： 大阪府大阪市淀川区	豊洲事業所	： 東京都江東区
中国・四国支社	： 広島県広島市中区	横浜関内ビジネスセンター	： 神奈川県横浜市中区
九州支社	： 福岡県福岡市博多区	札幌テレマーケティングセンター	： 北海道札幌市北区

ニフティ(株)

本社 (本店)	： 東京都新宿区
---------	----------

(株)セシール

本社 (本店)	： 東京都新宿区
---------	----------

ニフティライフスタイル(株)

本社（本店）：東京都新宿区

(株)マネースクエアHD

本社（本店）：東京都港区

A X N(株)

本社（本店）：東京都渋谷区

VAIO(株)

本社（本店）：長野県安曇野市 東京本社 ：東京都港区

デジタル家電専門運営店

神奈川県	71店	東京都	65店	埼玉県	36店	千葉県	32店	静岡県	21店
長野県	3店	山梨県	6店	新潟県	9店	茨城県	5店		合計248店

キャリアショップ運営店

北海道	16店	青森県	9店	秋田県	13店	岩手県	11店	山形県	7店
宮城県	18店	福島県	7店	神奈川県	79店	東京都	107店	埼玉県	39店
千葉県	36店	群馬県	11店	栃木県	12店	茨城県	18店	山梨県	11店
長野県	11店	新潟県	25店	静岡県	36店	富山県	7店	石川県	12店
福井県	1店	滋賀県	5店	岐阜県	19店	愛知県	51店	三重県	25店
奈良県	7店	和歌山県	18店	大阪府	46店	京都府	20店	兵庫県	24店
岡山県	18店	広島県	22店	山口県	5店	鳥取県	4店	島根県	10店
香川県	21店	徳島県	7店	愛媛県	25店	高知県	9店	福岡県	43店
佐賀県	9店	長崎県	13店	大分県	7店	宮崎県	4店	熊本県	17店
鹿児島県	11店	沖縄県	9店						合計935店

(注) キャリアショップ及び通信専門店の店舗数は、関係会社直営店及びFC店舗を合わせて記載しております。

海外

カンボジア 2店 シンガポール12店 マレーシア95店 インドネシア5 店 合計114店

(7) 使用人の状況 (2025年3月31日現在)

① 企業集団の使用人の状況

使 用 人 数	前 連 結 会 計 年 度 末 比 増 減
11,868名 (4,728名)	327名増 (153名減)

(注)・使用人数は就業員数であり、契約社員及びパートタイマーは () 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

② 当社の使用人の状況

使 用 人 数	前事業年度末比増減	平 均 年 齢	平均勤続年数
2,904名 (2,972名)	228名増 (139名増)	35歳3ヶ月	9年3か月

(注)・使用人数は就業員数であり、契約社員及びパートタイマーは () 内に年間の平均人員を外数で記載しております。

(8) 主要な借入先の状況 (2025年3月31日現在)

借 入 先	借 入 額
(株) み ず ほ 銀 行	19,610百万円
(株) 三 菱 U F J 銀 行	17,517百万円
三 井 住 友 信 託 銀 行 (株)	10,023百万円
(株) 横 浜 銀 行	8,115百万円
(株) 三 井 住 友 銀 行	8,031百万円
(株) り そ な 銀 行	3,666百万円
(株) あ お ぞ ら 銀 行	2,821百万円

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

2. 会社の現況

(1) 株式の状況 (2025年3月31日現在)

- ① 発行可能株式総数 340,000,000株
- ② 発行済株式の総数 97,121,697株 (自己株式 5,457,535株を除く)
- ③ 株主数 16,860名 (前期末比 0名)
- ④ 大株主 (上位10名)

株主名	持株数	持株比率
野島廣司(株)	14,698,000株	15.1%
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	8,770,300株	9.0%
ティーエヌホールディングス(株)	5,320,000株	5.5%
(株)日本カストディ銀行 (信託口)	4,862,300株	5.0%
ネックス社員持株会	4,027,340株	4.1%
公益財団法人真柄福祉財団	3,408,960株	3.5%
(有)ノマ	3,000,000株	3.1%
野島廣司	2,821,800株	2.9%
野島隆久	2,439,200株	2.5%
(株)三菱UFJ銀行	2,240,000株	2.3%

- (注) 1.持株比率は自己株式を控除して計算しております。
2.当社は自己株式 5,457,535株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

(2) 新株予約権等の状況

① 当事業年度末日における新株予約権等の状況

名 称 (発 行 日)	行 使 期 間	新株予約 権 の 数	目的となる 普通株式の数	保 有 者 数	発 行 価 額	行 使 価 額
第18回新株予約権 (2020年7月31日)	2023年7月22日～ 2025年7月21日	9,193 (注) 個	1,838,600株	1,050名	無償	1株当たり 1,319円
第19回新株予約権 (2021年8月4日)	2024年7月21日～ 2026年7月20日	12,987 (注) 個	2,597,400株	1,814名	無償	1株当たり 1,418円
第20回新株予約権 (2022年8月3日)	2025年7月20日～ 2027年7月19日	14,798 (注) 個	2,959,600株	1,551名	無償	1株当たり 1,423円
第21回新株予約権 (2023年8月2日)	2026年7月19日～ 2028年7月18日	33,494個	3,349,400株	2,332名	無償	1株当たり 1,263円
第22回新株予約権 (2024年8月6日)	2027年7月17日～ 2029年7月16日	34,902個	3,490,200株	2,812名	無償	1株当たり 1,570円

(注) 当社は、2022年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

新株予約権の行使の条件

- ・ 新株予約権の割当を受けた者は、権利行使時において当社又は当社子会社の取締役、執行役又は従業員のいずれかの地位を有していることを要します。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りではありません。
- ・ 新株予約権の相続はこれを認めません。

上記新株予約権のうち当社役員の保有状況

	名 称	新株予約権の数	目的となる普通株式の数	保 有 者 数
取締役（社外取締役を除く）及び執行役	第18回新株予約権	（注）570個	114,000株	7名
	第19回新株予約権	（注）742個	148,400株	7名
	第20回新株予約権	（注）923個	184,600株	9名
	第21回新株予約権	1,372個	137,200株	9名
	第22回新株予約権	2,200個	220,000株	9名
社 外 取 締 役	第18回新株予約権	（注）40個	8,000株	1名
	第19回新株予約権	（注）224個	44,800株	4名
	第20回新株予約権	（注）300個	60,000株	5名
	第21回新株予約権	570個	57,000株	7名
	第22回新株予約権	740個	74,000株	7名

（注）当社は、2022年10月1日付で1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

② 当事業年度中に交付した新株予約権等の状況

当事業年度中に交付した新株予約権は①に記載のとおりであります。

上記新株予約権のうち当社従業員等への交付状況

	新株予約権の数	目的となる普通株式の数	交付者数
当社従業員（当社役員を兼ねているものを除く）	15,786個	1,578,600株	1,233名
子会社の役員及び従業員	16,920個	1,692,000株	1,668名

（注）当社従業員等に交付した新株予約権の数、目的となる普通株式の数及び交付者数は、交付日現在の数であります。

(3) 会社役員の状況

① 取締役の状況（2025年3月31日現在）

氏 名	担 当	重 要 な 兼 職 の 状 況
野 島 廣 司	取締役会議長、報酬委員	Nojima APAC Limited Chairman, Group CEO
温 盛 元	報酬委員（委員長）	
國 井 弘 文	指名委員（委員長）	
山 根 純 一		
石 原 彩 子	指名委員	
幡 野 裕 明	報酬委員	
平 本 和 生	監査委員（委員長） 指名委員、報酬委員	
高 見 和 徳	指名委員、報酬委員	
山 田 隆 持	指名委員、報酬委員	
堀 内 文 子	監査委員、報酬委員	
池 田 匡 紀	指名委員	
柴 原 多	監査委員	西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 パートナー
林 文 子		
井 上 幸 夫	監査委員	

② 執行役の状況（2025年3月31日現在）

会社における地位	氏 名	担 当 及 び 重 要 な 兼 職 の 状 況
代 表 執 行 役 社 長	野 島 廣 司	CEO兼Nojima APAC Limited Chairman, Group CEO
代 表 執 行 役 専 務	温 盛 元	商品ソリューション推進部長 兼 関連事業推進部長
常 務 執 行 役	國 井 弘 文	販買推進部長
執 行 役	山 根 純 一	ITシステム部長
執 行 役	石 原 彩 子	M&Cソリューション推進部長 兼 サービスイノベーション部長
執 行 役	幡 野 裕 明	財務経理部長
執 行 役	稲 垣 健 志	カスタマーリレーション部長
執 行 役	佐 藤 徳 之	営業開発部長
執 行 役	安 間 大 悟	財務経理部 連結決算グループ長

- (注) 1. 取締役 平本和生、高見和徳、山田隆持、堀内文子、池田匡紀、柴原多、林文子、井上幸夫の各氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 取締役 柴原多氏は西村あさひ法律事務所・外国法共同事業のパートナーを兼務しております。
3. 会社法第400条第2項に定める指名委員会等設置会社における各委員は、2024年6月21日開催の取締役会で以下のとおり選定され就任いたしました。なお、指名委員長については、2025年1月21日の指名委員会により、2025年2月1日付で代表取締役兼執行役副社長福田浩一郎氏が辞任することが受理されたため、同年同日、常務執行役の國井弘文氏が就任しております。
- 「指名委員」：國井弘文氏（委員長）、石原彩子氏、平本和生氏、高見和徳氏、山田隆持氏、池田匡紀氏
- 「監査委員」：平本和生氏（委員長）、堀内文子氏、柴原多氏、井上幸夫氏
- 「報酬委員」：温盛元氏（委員長）、野島廣司氏、幡野裕明氏、平本和生氏、高見和徳氏、山田隆持氏、堀内文子氏
4. 当社は、東京証券取引所に対して、取締役 平本和生、高見和徳、山田隆持、堀内文子、池田匡紀、柴原多、林文子及び井上幸夫の各氏を独立役員とする独立役員届出書を提出しております。
5. 当社は、監査委員長が定期的に会社に出社し、重要な会議への出席等で情報の収集を行うほか、内部監査部門及び執行役からヒアリングを行うことで監査の実効性を確保していることから、常勤の監査委員を設置しておりません。
6. 2024年6月21日開催の62回定時株主総会終了のときをもって、任期満了により取締役兼執行役田島穰氏は退任いたしました。

7. 2024年6月21日付で執行役の地位及び担当を以下のとおり変更しております。
 - ・執行役販買推進部長國井弘文氏は常務執行役販買推進部長となりました。
8. 2024年8月1日付で執行役モバイルソリューション推進部長疋田宜裕氏は同年8月1日付で執行役を辞任しております。
9. 2025年1月21日の指名委員会により代表取締役兼執行役副社長福田浩一郎氏の辞任が受理されたことにより同年2月1日付で同人は辞任いたしました。
10. 2025年1月21日をもって福田浩一郎氏は指名委員長を辞任いたしました。
11. 2025年2月1日付で執行役の地位及び担当を以下のとおり変更しております。
 - ・執行役専務関連事業推進部長温盛元氏は執行役専務商品ソリューション推進部長兼関連事業推進部長となりました。
 - ・執行役サービスイノベーション部長石原彩子氏は執行役M&Cソリューション推進部長兼サービスイノベーション部長となりました。
12. 2025年4月1日付で執行役の地位及び担当を以下のとおり変更しております。
 - ・事業推進部海外事業グループ長東浦秀也氏は、執行役事業推進部海外事業グループ長となりました。
 - ・財務経理部財務グループ長日坂聡氏は、執行役財務経理部財務グループ長となりました。

③ 責任限定契約の内容の概要

当社は社外取締役が期待される役割を十分発揮できるよう、現行定款において、社外取締役との間で損害賠償責任を限定する契約を締結できる旨を定めており、社外取締役である平本和生、高見和徳、山田隆持、堀内文子、池田匡紀、柴原多、林文子、井上幸夫の各氏との間に責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は5百万円又は法令の定める額のいずれか高い額であります。

④ 会社の役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者(当社の取締役・執行役及び主な子会社の取締役・監査役)が負担することになる損害賠償請求がなされたことにより被る損害を、当該保険契約により填補することとしております。

なお、職務の適正性が損なわれないよう、当該保険契約に免責額の定めを設け、一定額に至らない損害については填補の対象とはしないこととしております。

⑤ 取締役及び執行役の報酬等の総額

イ. 役員報酬の内容の決定に関する方針等

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針を定めております。取締役及び執行役の個人別報酬の内容は、ノジマ経営理念の具体的実践において、コミットメントに対する業績に連動した報酬、株主やその他の利害関係者から見てオープンで公正な報酬、新しい人材の確保・獲得ができる競争力のある報酬体系を基本方針としております。

上記方針を踏まえ、2024年度における取締役及び執行役の報酬は、当社経営環境、業績、コミットメントに対する成果をもとに、就任時に決定されるむこう1年間の取締役及び執行役の個別の基本報酬とストック・オプションとで構成しております。付与したストック・オプションについては費用計上した額を記載しております。取締役の固定報酬部分については、各取締役の役職、職責、期待に対する貢献度、勤務時間を反映したものとしております。執行役の固定報酬部分については、各執行役の役職、職責、コミットメントに対する成果、前事業年度報酬実績を反映したものとしております。取締役及び執行役の退職慰労金は、在籍年数及び月額報酬により支給しております。また、在籍期間の功績により功労金を加算することがあります。

当社は指名委員会等設置会社であり、会社法が定める報酬委員会において、社外取締役4名、社内取締役3名で構成される報酬委員7名により年7回開催され、報酬方針及び個別報酬の案を審議しています。決議は、法令に別段の定めがある場合の他は、報酬委員の過半数の出席を要し、出席した報酬委員の過半数をもって行っております。また報酬委員会の開催後最初に開催される取締役会において、報酬委員会の職務の遂行の状況を報告しております。

ロ．報酬委員会の活動状況

開催日	出席状況	主な議題
2024年4月16日	6名全員出席	新任執行役の報酬の件（決議）
2024年5月21日	6名全員出席	退任役員への退職慰労金支給の件（決議）
2024年6月21日	7名全員出席	報酬委員会委員長及び報酬委員会議長の互選（決議） 報酬委員会議長代行順位の件（決議） 取締役・執行役の報酬決定の件（決議）
2024年7月16日	7名全員出席	役員報酬の件（決議） 第22回新株予約権の付与の件（決議）
2024年10月15日	7名全員出席	役員報酬の件（決議）
2025年1月21日	7名全員出席	役員報酬の件（決議）
2025年3月18日	7名全員出席	役員報酬の件（決議）

ハ. 当事業年度に係る報酬額等の総額

区 分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック・ オプション	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	206	154	51	0	8
社外取締役	83	66	17	-	8
執行役	45	40	4	-	6

- (注) 1. 取締役と執行役の兼任者の報酬は取締役の欄に総額を記入しております。
2. 当事業年度末日現在の人員は、取締役14名、執行役9名で、内6名は取締役と執行役を兼任しております。
3. 報酬委員会決議に基づく報酬は、会社法第404条第3項並びに同法第409条第3項第1号による確定額であります。
4. 報酬等の総額には、ストック・オプションとして付与いたしました新株予約権に係る当事業年度中の費用計上を含んでおります。
5. 非金銭報酬等として取締役及び執行役に対して新株予約権を交付しております。
当該新株予約権交付の内容及びその現状は(2)新株予約権等の状況に記載のとおりであります。

- 二. 取締役及び執行役の個人別の報酬等の内容が当該方針に沿うものであると報酬委員会が判断した理由
報酬委員会は、取締役及び執行役の個人別の報酬等の内容の決定に当たっては、原案について決定方針との整合性を含めた多角的な検討を行っており、その決定方針に沿うものであると判断しております。

⑥ 報酬委員会による取締役及び執行役が受ける個人別の報酬の内容の決定に関する方針

- イ. 取締役及び執行役の個人別報酬は、ノジマ経営理念の具体的実践において、コミットメントに対する業績に連動した報酬、株主やその他の利害関係者から見てオープンで公正な報酬、新しい人材の確保・獲得ができる競争力のある報酬体系を基本方針とします。
ロ. 上記方針を踏まえ、取締役及び執行役の報酬は、当社経営環境、業績、コミットメントに対する成果をもとに、就任時に決定されるむこう1年間の取締役及び執行役の個別の固定報酬部分と、前事業年度の会社の業績に対する取締役及び執行役の成果を反映した業績連動報酬部分とで構成します。
ハ. 取締役の固定報酬部分については、各取締役の役職、職責、期待に対する貢献度、勤務時間を反映したものとします。
二. 執行役の固定報酬部分については、各執行役の役職、職責、コミットメントに対する成果、前事業年度報酬実績を反映したものとします。
ホ. 取締役及び執行役の退職慰労金は、在籍年数及び月額報酬により支給します。また、在籍期間の功績により功労金を加算することがあります。

⑦ 社外役員に関する事項
社外役員の主な活動状況

氏 名	当期開催の取締役会及び各委員会への出席状況	取締役会及び各委員会における発言その他の活動状況
平本 和生	取締役会13回全てに出席、指名委員会6回全てに出席、監査委員会13回全てに出席、報酬委員会7回全てに出席しております。(注1)	放送業界における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い見識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発言を行っております。
高見 和徳	取締役会13回全てに出席、指名委員会6回全てに出席、監査委員会3回全てに出席、報酬委員会7回全てに出席しております。(注1、2)	家電メーカーにおける会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い見識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発言を行っております。
山田 隆持	取締役会13回のうち12回出席、指名委員会6回全てに出席、報酬委員会7回全てに出席しております。(注1)	通信業界における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い見識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発言を行っております。
堀内 文子	取締役会13回全てに出席、監査委員会13回全てに出席、報酬委員会7回全てに出席しております。(注1)	長年にわたる税理士としての豊富な経験と会計業務に関する専門知識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発言を行っております。
池田 匡紀	取締役会13回のうち12回出席、指名委員会6回のうち4回に出席しております。(注1)	小売業における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い見識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発言を行っております。
柴原 多	取締役会13回全てに出席、監査委員会13回全てに出席しております。(注1)	長年にわたる弁護士としての豊富な経験と法律に関する専門知識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発信を行っております。
林 文子	取締役会13回全てに出席しております。(注1)	販売業界における会社経営と指定都市である横浜市の市長3期の任期で培われた豊富なビジネス経験・知識や幅広い見識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発信を行っております。
井上 幸夫	取締役会10回全てに出席、監査委員会10回全てに出席しております。(注1、3)	製造事業における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い見識等に基づき、当社の経営全般について積極的に発言を行っております。

(注1) 書面決議による取締役会の回数は除いております。

(注2) 高見取締役は、2024年6月21日に開催された株主総会において監査委員を退任しておりますので、退任までの 期間に開催された監査委員会の出席状況を記載しております。

(注3) 井上取締役は、2024年6月21日に開催された株主総会において社外取締役に就任し、同年同日に開催された取締役会において監査委員に就任しておりますので、それぞれの就任後に開催された取締役会及び監査委員会の出席状況を記載しております。

(4) 会計監査人の状況

- ① 名称 有限責任監査法人トーマツ
- ② 報酬等の額

	支払額（百万円）
当事業年度に係る会計監査人としての報酬等の額	100
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	186

- (注) 1. 当社監査委員会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査計画における監査時間及び監査報酬の推移並びに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき会社法第399条第1項の同意を行っております。
2. 当社の一部の連結子会社につきましては、当社の会計監査人以外の監査法人の監査を受けております。
3. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

③ 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

監査委員会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、監査委員会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査委員全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査委員会が選定した監査委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

④ 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人有限責任監査法人トーマツは、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、5百万円又は会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額のいずれか高い額としております。

(5) 業務の適正を確保するための体制

執行役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

- ① 監査委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人に関する事項
監査委員会の職務を補助すべき従業者を置く。
- ② 監査委員会の職務を補助すべき取締役及び使用人の執行役からの独立性に関する事項
①に定める従業者は専一的に監査委員会の職務を補佐すべき業務のみを遂行することとし、完全にその独立性を確保する。
- ③ 執行役及び使用人が監査委員会に報告をするための体制その他の監査委員会への報告に関する体制
イ. 執行役は、監査委員会に対して、定期的に、経営に重要な影響を及ぼす事項及び職務執行状況等を報告する。
ロ. 使用人は、監査委員会に対して、経営に重要な影響を及ぼす事項及び職務執行状況等を報告する。
- ④ その他監査委員会の監査が実効的に行われることを確保するための体制
イ. 代表執行役社長は、定期的に、監査委員会と情報交換を行う。
ロ. 監査委員会は、内部監査室、コンプライアンスグループ、財務経理部その他関係部署と連携する。
ハ. 監査委員会は、会計監査人を監督する。
- ⑤ 執行役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
執行役は、その職務の執行に係る文書を文書管理規程に従い、適切に保存及び保管する。
- ⑥ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
所管部署の責任者は、リスク管理規程、内部監査規程、コンプライアンス規程その他関係規程を整備し、適切に運用する。
- ⑦ 執行役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
取締役会は、執行役規則、その他関係規程を整備する。
- ⑧ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
イ. 代表執行役社長は、使用人に対して、「ノジマグループ全員経営理念」を周知させる。
ロ. コンプライアンスグループは、内部通報制度を活用することにより、問題を早期に発見し、適切に対応する。

- ⑨ 当該株式会社並びにその親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ. 当社グループは、当社及び子会社に対して、「ノジマグループ全員経営理念」を周知させる。
 - ロ. 当社グループは、当社及び子会社において内部統制規程を策定し、グループ全体の内部統制体制を推進する。
 - ハ. 当社グループは、当社の関係会社管理規程、当社及び子会社のコンプライアンス規程その他関係規程に従い、グループ全体のコンプライアンス体制を推進する。
- 二. 内部監査室は、必要がある場合には、子会社の内部監査を実施する。
- ⑩ 財務報告の適正性を確保するための体制の整備
- 当社グループの財務報告に関する信頼性を確保するため、財務報告に係る内部統制の基本方針に基づき、当社グループは、財務報告に係る必要適正な内部統制を整備し、運用する。
- ⑪ 反社会的勢力の排除に向けた基本的な考え方と体制
- 当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは、取引関係も含めて一切の関係を遮断する。また、反社会的勢力からの不当要求に対しては、組織全体として毅然とした対応をとる。

(6) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社では、「内部統制規程」「内部統制委員会規程」に基づき、内部統制委員会を12回開催し、法令、社内規程等の遵守状況を把握し、必要に応じてコンプライアンス体制を見直しました。

当社の取締役会は、社外取締役8名を含む取締役14名で構成し、職務執行の状況を監督しました。また、取締役会は執行役を選任し、各執行役は、各自の権限及び責任の範囲で、職務を執行するとともに、自らの職務執行の状況を定期的に取締役会に報告しました。

子会社については、「関係会社管理規程」に基づき、重要な事項を当社取締役会で審議し、子会社の適正な業務運営及び当社による実効性のある管理の実現に努めました。

内部監査室は、内部監査計画に基づき、法令・社内規程等の遵守状況につき監査を実施し、その結果及び改善状況を代表執行役社長及び監査委員会に報告しました。

監査委員会は、監査方針を含む監査計画を策定し、月1回の定時監査委員会に加えて適宜臨時監査委員会等を開催しました。また、監査委員間の情報共有に基づき会社の状況を把握し、必要な場合は提言の取りまとめを行いました。さらに、取締役・執行役その他使用人と対話を行い、内部監査室・会計監査人と連携し、執行役及び使用人の職務の執行状況を監査しました。

(7) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを中期的な方針としております。

(8) 資本政策の基本的な方針

当社グループは、安定的な収益力、効率的な投下資本の運用、及び業界トップの持続的な高い成長力を重要な経営目標として、ROE15%以上、連結自己資本比率30%以上の健全経営を掲げております。

また、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと位置づけたうえで、財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保を勘案し、継続して安定した配当を実施することを基本方針としております。

連結貸借対照表 (2025年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部	金 額
科 目	
流動資産	396,676
現金及び預金	66,614
売掛金	101,373
商品及び製品	72,277
原材料及び貯蔵品	6,063
番組勘定	2,688
未収入金	38,988
預託金	72,041
トレーディング商品	23,504
その他	14,230
貸倒引当金	△1,106
固定資産	227,134
有形固定資産	58,948
建物及び構築物	20,997
機械装置及び運搬具	783
工具、器具及び備品	4,772
リース資産	14,768
土地	16,724
その他	901
無形固定資産	107,602
のれん	42,621
ソフトウェア	3,526
商標権	6,019
契約関連無形資産	43,000
顧客関連無形資産	9,264
技術関連無形資産	3,133
その他	36
投資その他の資産	60,583
投資有価証券	31,412
繰延税金資産	7,570
敷金及び保証金	18,621
退職給付に係る資産	259
その他	3,098
貸倒引当金	△379
資産合計	623,810

負 債 の 部	金 額
科 目	
流動負債	305,202
支払手形及び買掛金	87,761
電子記録債務	6,543
短期借入金	11,652
1年内返済予定の長期借入金	11,843
未払金	25,983
未払法人税等	14,142
未払消費税等	3,717
未払費用	5,911
前受金	9,209
契約負債	14,869
製品保証引当金	1,989
ポイント引当金	1,424
賞与引当金	4,288
リース債務	4,631
受入保証金	92,398
トレーディング商品	1,415
その他	7,418
固定負債	110,299
長期借入金	46,688
契約負債	18,675
役員退職慰労引当金	359
退職給付に係る負債	11,929
繰延税金負債	13,118
リース債務	12,801
その他	6,725
特別法上の準備金	0
金融商品取引責任準備金	0
負債合計	415,502
純 資 産 の 部	
株主資本	194,989
資本金	6,330
資本剰余金	7,734
利益剰余金	191,505
自己株式	△10,580
その他の包括利益累計額	7,153
その他有価証券評価差額金	3,757
繰延ヘッジ損益	△2
為替換算調整勘定	3,399
新株予約権	2,853
非支配株主持分	3,311
純資産合計	208,307
負債・純資産合計	623,810

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売上高		853,427
売上原価		607,447
売上総利益		245,980
販売費及び一般管理費		197,608
営業利益		48,371
営業外収益		
受取利息及び配当金	733	
仕入割引	2,627	
投資有価証券売却益	159	
持分法による投資利益	82	
その他	1,321	4,924
営業外費用		
支払利息	1,139	
為替差損	358	
寄付金	139	
その他	460	2,098
経常利益		51,197
特別利益		
固定資産売却益	68	
新株予約権戻入益	291	
事業譲渡益	23	382
特別損失		
減損損失	1,107	
投資有価証券評価損	151	
店舗閉鎖損失	178	1,437
税金等調整前当期純利益		50,143
法人税、住民税及び事業税	18,924	
法人税等調整額	△1,413	17,510
当期純利益		32,632
非支配株主に帰属する当期純利益		340
親会社株主に帰属する当期純利益		32,292

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	6,330	7,735	162,953	△6,293	170,725
連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当			△3,702		△3,702
親会社株主に帰属する当期純利益			32,292		32,292
自 己 株 式 の 取 得				△6,292	△6,292
自 己 株 式 の 処 分		△22		2,005	1,982
利益剰余金から資本剰余金への振替		38	△38		－
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△16			△16
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）					
連結会計年度中の変動額合計	－	△0	28,551	△4,287	24,263
当 期 末 残 高	6,330	7,734	191,505	△10,580	194,989

	その他の包括利益累計額					新株予約権	非支配株主持分	純 資 産 計 合
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当 期 首 残 高	724	0	2,740	－	3,464	2,628	2,101	178,920
連 結 会 計 年 度 中 の 変 動 額								
剰 余 金 の 配 当								△3,702
親会社株主に帰属する当期純利益								32,292
自 己 株 式 の 取 得								△6,292
自 己 株 式 の 処 分								1,982
利益剰余金から資本剰余金への振替								－
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動								△16
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額（純額）	3,032	△3	659	－	3,689	225	1,209	5,123
連結会計年度中の変動額合計	3,032	△3	659	－	3,689	225	1,209	29,387
当 期 末 残 高	3,757	△2	3,399	－	7,153	2,853	3,311	208,307

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項に関する注記等

(1) 連結の範囲に関する事項

① 連結子会社の状況

・連結子会社の数	36社
・主要な連結子会社の名称	アイ・ティー・エックス(株) ITXコミュニケーションズ(株) (株)アップビート コネクシオ(株) ニフティ(株) (株)セシール ニフティライフスタイル(株) Nojima APAC Limited (株)マネースクエアHD VAIO(株) (株)ノジマテラススポーツクラブ (株)ヒューマン・アビリティ・デベロップメント AXN(株)

(株)Tryellは、2024年4月1日付で、当社の連結子会社であるニフティライフスタイル(株)を存続会社とする吸収合併により解散いたしました。

AKエンタテインメント(株)は、2024年4月1日付で、AKメディア(株)及びその子会社2社の株式を取得し、同社を当社の連結子会社としております。なお、AKメディア(株)は2024年7月1日付で、AKエンタテインメント(株)を存続会社とする吸収合併により解散いたしました。

ニフティライフスタイル(株)は、2024年5月31日付で、(株)ドアーズの全株式を取得し、同社を当社の連結子会社としております。

(株)ビジネスブランドワークスは、2024年6月17日付で、(株)ヒューマン・アビリティ・デベロップメントに商号変更しております。

当社は、2024年9月19日付で、(株)NJM1を新たに設立したことに伴い、同社を当社の連結の範囲に含めております。(株)NJM1は、2025年1月6日付でVAIO(株)及びVAIO株式を保有するVJホールディングス3(株)の株式を取得し、直接または間接的にVAIO(株)の93.2%を取得し、同社を当社の連結子会社としております。

アイ・ティー・エックス(株)は、持分法適用会社であった(株)カナデンテレスイスについて、2024年9月25日付で、株式を追加取得し、同社を当社の連結子会社としております。また、同日付でアイ・ティー・テレシス(株)に商号変更しております。

当社は、2025年2月18日付で、(株)NJM2及び(株)NJM3を新たに設立したことに伴い、同社を当社の連結の範囲に含めております。

② 非連結子会社の名称等

非連結子会社の数 4社
(株)TKYロジスティクス、他3社
(連結の範囲から除外した理由)

非連結子会社は、小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結計算書類に重要な影響を及ぼしていないため除外しております。

(2) 持分法の適用に関する事項

① 持分法を適用した関連会社の状況

・持分法適用の関連会社数	1社
・関連会社の名称	(株)ハスコムモバイル

② 持分法を適用しない非連結子会社の状況

- ・持分法非適用の非連結子会社数 4社
- ・非連結子会社の名称 (株)TKYロジスティクス、他3社

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用しない非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結計算書類に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(3) 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日が連結決算日と異なる連結子会社は次のとおりであります。

会社名	決算日
VAIO(株)	5月31日
VJホールディングス3(株)	6月30日
(株)ノジマステラススポーツクラブ	6月30日

連結計算書類の作成にあたっては、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を基礎としております。

なお、その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

連結子会社であるVAIO(株)及びVJホールディングス3(株)は、2025年4月1日付で(株)NJM1を存続会社とする吸収合併により、解散いたしました。なお、同日付で存続会社である(株)NJM1は、VAIO(株)に商号変更しております。

(4) 会計方針に関する事項

① 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

その他有価証券

- a.市場価格のない株式等
以外のもの 時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。
- b.市場価格のない株式等 移動平均法による原価法を採用しております。
- c.投資事業有限責任組合及び
それに類する組合への出資
(金融商品取引法第2条第
2項により有価証券とみな
されるもの) 組合契約に規定される決算報告書日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

ロ. 棚卸資産

商品	当社及び国内連結子会社は、移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。 一部の国内連結子会社は、先入先出法による原価法を採用しております。 在外連結子会社は、主として総平均法による低価法を採用しております。
製品	当社の連結子会社であるVAIO(株)は総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。
原材料	当社の連結子会社であるVAIO(株)は総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。
貯蔵品	当社及び国内連結子会社は、移動平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。
番組勘定	当社の連結子会社であるVAIO(株)は最終仕入原価法を採用しております。 当社の連結子会社であるAXN(株)は個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。
ハ. デリバティブ取引の評価基準 及び評価方法	当社の連結子会社である(株)セシール、(株)マネースクエア及びVAIO(株)は時価法を採用しております。

② 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産
(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社であるニフティ(株)、(株)セシール、(株)マネースクエアHD及び(株)マネースクエアは定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

国内連結子会社である(株)アップビート、アイ・ティー・エックス(株)、ITXコミュニケーションズ(株)、コネクシオ(株)及びVAIO(株)は定額法を採用しております。

在外連結子会社であるCourts(Singapore) Pte.Ltd.、Courts(Malaysia) Sdn.Bhd.、PT Courts Retail Indonesia及びThunder Match Technology Sdn. Bhd.は、主として定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 5年～47年

機械装置及び運搬具 2年～17年

工具、器具及び備品 2年～20年

ロ. 無形固定資産
(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

ソフトウェア 5年

商標権 5年～20年

契約関連無形資産 5年～20年

顧客関連無形資産 12年～16年

技術関連無形資産 7年

ハ. リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

③ 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等の特定債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 製品保証引当金

製品販売後のアフターサービス費用に備えるため、将来発生する修理費用の見積額を計上しております。

ハ. ポイント引当金

顧客の来店等に応じて付与するポイント制度に基づき、将来のポイント使用による費用の発生に備えるため、過去の実績を基礎にして将来使用されると見込まれる額を計上しております。

ニ. 賞与引当金

一部の連結子会社は従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づく要支給額を計上しております。

ホ. 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

ヘ. 金融商品取引責任準備金

有価証券の売買その他の取引またはデリバティブ取引等に関して生じた事故による損失に備えるため、金融商品取引法第46条の5に基づき、金融商品取引業等に関する内閣府令第175条に定めるところにより算出した金額を計上しております。

④ 重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しています。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段…為替予約

ヘッジ対象…外貨建金銭債務及び外貨建予定取引

ハ. ヘッジ方針

外貨建取引の必要の範囲内で将来の為替変動によるリスク回避を目的として為替予約取引を行っております。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象の相場変動又はキャッシュ・フロー変動累計とヘッジ手段の相場変動又はキャッシュ・フロー変動の累積を比較し、その変動額の比率によって有効性を評価しております。

- ⑤ 退職給付に係る会計処理の方法
- イ. 退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。
 なお、一部の連結子会社は給付算定式基準によっております。
- ロ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 数理計算上の差異は、発生年度に費用処理しております。
 過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（6年）による定額法により費用処理しております。
- ハ. 小規模企業等における簡便法 一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
- ⑥ 収益及び費用の計上基準
- 当社グループでは、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客への財やサービスの移転との交換により、その権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識しております。
- ステップ1：顧客との契約を識別する。
 ステップ2：契約における履行義務を識別する。
 ステップ3：取引価格を算定する。
 ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務に配分する。
 ステップ5：企業が履行義務を充足した時に（又は充足するにつれて）収益を認識する。
- 当社グループは、家電等や携帯電話等の販売において、主に一般消費者に対して家電製品、携帯電話等の商品の販売を行っており、商品の引渡時点において顧客が支配を獲得し、履行義務が充足されると判断しているため、当該商品の引渡時点で収益を認識しております。
- インターネット事業は、ネットワークサービスにおいて、主に一般消費者に対してインターネット接続サービス等の提供を行っており、契約者にサービスを提供するにつれて収益を認識しております。
- プロダクト事業は、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品等の国内取引において、出荷時から当該製品等の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。
- なお、当社グループのうち、デジタル家電専門店運営事業及び海外事業において、販売した商品に対して別途の契約に基づく修理等の保証サービスを提供しております。保証サービスを履行義務として識別し、保証期間にわたって履行義務が充足しているため、一定期間にわたり収益を認識しております。
- また、デジタル家電専門店運営事業は自社ポイント制度の運用を行っておりますが、ポイント制度は顧客にとって重要な権利であると判断したため、ポイントの付与時に別個の履行義務を識別し、通常、顧客によるポイント使用時点で収益を認識しております。
- ⑦ 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
- 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。
- ⑧ のれんの償却方法及び償却期間
- のれん 3年～20年の均等償却

⑨ その他連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項

イ. 顧客を相手方とする外国為替証拠金取引の会計処理 顧客からの注文により成立する外国為替証拠金取引については、取引に係る決済損益及び評価損益を売上高に計上しております。

なお、評価損益は、顧客を相手方とする全ての未決済の外国為替証拠金取引に係る評価損益を取引明細ごとに算定し、評価益相当額を連結貸借対照表上のトレーディング商品（資産）に、評価損相当額をトレーディング商品（負債）にそれぞれ計上しております。

また、顧客から外国為替証拠金取引の証拠金として預託された金銭は、金融商品取引法第43条の3第1項並びに金融商品取引業等に関する内閣府令第143条第1項第1号に定める金銭信託により自己の固有財産と区分して管理しております。当該金銭信託に係る元本は連結貸借対照表上の預託金に計上しております。

ロ. カウンターパーティーを相手方とする外国為替証拠金取引の会計処理 カバー取引注文により成立する外国為替証拠金取引については、取引に係る決済損益及び評価損益を売上高に計上しております。

なお、評価損益は、カウンターパーティーを相手方とする全ての未決済の外国為替証拠金取引に係る評価損益を取引明細ごとに算定したうえで、これらをカウンターパーティーごとに合算し損益を相殺して算出しており、評価益相当額を連結貸借対照表上のトレーディング商品（資産）に、評価損相当額をトレーディング商品（負債）にそれぞれ計上しております。

2. 会計方針の変更に関する注記

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当連結会計年度の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による連結計算書類への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結計算書類における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当連結会計年度の期首から適用しております。なお、当該会計方針の変更による連結計算書類への影響はありません。

3. 表示方法の変更に関する注記

（連結貸借対照表）

前連結会計年度まで「流動資産」の「その他」に含めて表示しておりました「原材料及び貯蔵品」（前連結会計年度375百万円）は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より、区分掲記しております。

前連結会計年度まで「無形固定資産」の「その他」に含めて表示しておりました「商標権」（前連結会計年度842百万円）は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より、区分掲記しております。

4. 会計上の見積りに関する注記

(企業結合により取得した無形資産及びのれん)

(1) 当連結会計年度の連結貸借対照表に計上した金額

商標権	6,019百万円
契約関連無形資産	43,000百万円
顧客関連無形資産	9,264百万円
技術関連無形資産	3,133百万円
のれん	42,621百万円
計	104,037百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

商標権は主に当年度に実施されたVAIO®の買収において、同社が保有するブランド価値等を識別しております。契約関連無形資産は、主にキャリアショップ運営事業で行った買収において、被取得企業が保有するキャリアとの販売代理店契約を識別しております。顧客関連無形資産はVAIO®の買収及びインターネット事業で行った買収において、同社及び被取得企業が保有する顧客リスト、顧客との契約等を識別しております。また、技術関連無形資産は金融事業で行った㈱マネースクエアHDの買収において、同社が保有する特許権を識別しております。のれんは、被取得企業の資産及び負債を企業結合日の時価により評価し、資産と負債の差額に係る当社持分相当額と当社が保有する被取得企業の株式の取得原価との差額となります。

無形資産及びのれんに固定資産の減損に係る会計基準を適用するにあたり、無形資産のグルーピングは各事業に関連する固定資産の単位とし、のれんについては帰属する事業に関連する資産グループにのれんを加えたより大きな単位としております。また、無形資産及びのれんの金額が相対的に多額であることから、減損損失の兆候把握において兆候があると判定しております。その上で、減損損失の認識の判定において、各事業のグルーピングの単位に従って割引前将来キャッシュ・フローが、固定資産の簿価を下回る場合には、減損損失を認識することとしております。なお、当連結会計年度においては、当該無形資産及びのれんについて減損損失を認識しておりません。

企業結合により識別した無形資産及びのれんは、取得時の将来キャッシュ・フローに基づき測定しておりますが、当該将来キャッシュ・フローには売上高成長率や割引率、代理店契約の継続率等の主要な仮定が含まれております。また、無形資産及びのれんの減損損失の認識の判定にあたり、将来キャッシュ・フローの見積りが必要となりますが、当該将来キャッシュ・フローの算定においても同様の仮定を織り込んでおります。

これらの仮定は、経営者の最善の見積りによって決定されますが、将来の不確実な経済条件の変動により影響を受ける可能性があり、仮定の見直しが必要となった場合には、翌連結会計年度の企業結合により取得した無形資産及びのれんの金額に重要な影響を与える可能性があります。

(店舗等の固定資産の減損)

(1) 当連結会計年度の連結損益計算書に計上した金額

デジタル家電専門店運営事業の固定資産	21,298百万円
デジタル家電専門店運営事業の減損損失	301百万円

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社グループのデジタル家電専門店運営事業は、多くの店舗設備や管理システム等を保有しております。

各資産または資産グループ（店舗を基本単位とする）について減損の兆候があると認められる場合には、将来キャッシュ・フローを見積り、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回った場合に減損損失の認識が必要になります。減損損失の認識が必要と判定した場合、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。なお、回収可能価額は、店舗等の使用等による将来キャッシュ・フローの割引現在価値により算定される使用価値と正味売却価額とのいずれが高い方の金額としております。

将来キャッシュ・フローは、各店舗の状況を反映した店舗別事業計画に基づいて算定いたしますが、当該事業計画には売上高成長率や出店状況等の商圈分析や、顧客の来店予測を含む動態分析などの主要な仮定が含まれております。

これらの仮定は、経営者の最善の見積りによって決定されますが、将来の不確実な経済条件の変動により影響を受ける可能性があり、仮定の見直しが必要となった場合には、翌連結会計年度の固定資産の減損損失の金額に重要な影響を与える可能性があります。

5. 連結貸借対照表に関する注記

(1) 担保資産

当社の連結子会社である㈱マネースクエアが保有する顧客区分管理信託契約に基づく信託受益権のうち第一受益権及び劣後第二受益権について、外国為替証拠金取引に関連して生じる債務に対して第一順位、これに関連して金融機関が行っている支払承諾契約(極度額8,500百万円)に基づく債務保証に対して第二順位とする質権を設定しております。

また、現金及び預金(定期預金)850百万円については、上記支払承諾契約の担保として差し入れております。なお、上記支払承諾契約に基づく担保付債務(被保証債務残高)の残高はありません。

(2) 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額

73,453百万円

(3) コミットメントライン等

当社グループは、運転資金の機動的かつ安定的な調達を可能にするため、主要取引金融機関と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

借入枠	121,484百万円
借入実行残高	37,639百万円
差引借入未実行残高	83,845百万円

(4) 「リース資産」は、国際財務報告基準を適用している子会社が計上している使用権資産(14,740百万円)を含めて表示しております。

(5) 特別法上の準備金

金融商品取引法の規定に基づく準備金を計上しております。準備金の計上を規定した法定の条項は、次のとおりであります。

金融商品取引責任準備金

金融商品取引法第46条の5及び金融商品取引業等に関する内閣府令第175条に基づき計上しております。

6. 連結損益計算書に関する注記

(1) 売上高のうち、顧客との契約から生じる収益の額

843,472百万円

(2) 減損損失

場所 店舗(神奈川県、東京都、シンガポール他)

用途 店舗設備等

種類 建物及び構築物、器具備品等

当社グループは、原則として、継続的に損益の把握を実施している店舗をグルーピングの基本単位としております。

営業活動から生じる損益が継続してマイナスで、資産グループの固定資産簿価を全額回収できる可能性が低いと判断した店舗等について、当該資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失1,107百万円として特別損失に計上しております。

その内訳は、建物及び構築物469百万円、工具、器具及び備品143百万円、リース資産461百万円、ソフトウェア32百万円並びにその他0百万円であります。

当該資産グループの回収可能価額は、使用価値又は正味売却価額により測定しております。使用価値により測定する場合は将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスのため回収可能価額をゼロとして評価しており、また、正味売却価額により測定する場合は、固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出した金額を基礎として評価しております。

7. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

株 式 の 種 類	当連結会計年度期首の株式数 (千株)	当連結会計年度増加株式数 (千株)	当連結会計年度減少株式数 (千株)	当連結会計年度末の株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	102,579	—	—	102,579
合計	102,579	—	—	102,579
自己株式				
普通株式	4,693	1,860	1,096	5,457
ESOP信託口が保有する 普通株式	—	1,573	236	1,336
合計	4,693	3,434	1,333	6,794

- (注) 1. 当社が所有する普通株式の増加株式数は、自己株式の取得（株式数1,860,900株）及び単元未満株式の買取（株式数72株）によるものであります。
2. 当社が所有する普通株式の減少株式数は、ストックオプションの行使によるものであります。
3. ESOP信託口が保有する当社の普通株式の増加株式数は、市場からの買付け（株式数1,573,500株）によるものであります。
4. ESOP信託口が保有する当社の普通株式の減少株式数は、当社持株会への売却によるものであります。

(2) 剰余金の配当に関する事項

① 配当金支払額等

イ. 2024年5月7日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 1,761百万円
- ・1株当たり配当額 18円
- ・基準日 2024年3月31日
- ・効力発生日 2024年6月7日

ロ. 2024年10月31日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 1,940百万円
- ・1株当たり配当額 20円
- ・基準日 2024年9月30日
- ・効力発生日 2024年12月6日

- (注) 1. 2024年10月31日取締役会決議による配当金の総額には、従業員ESOP信託口が保有する当社株式に対する配当金31百万円が含まれております。

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの

2025年5月7日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 2,428百万円
- ・1株当たり配当額 25円
- ・基準日 2025年3月31日
- ・効力発生日 2025年6月6日

- (注) 1. 2025年5月7日取締役会決議による配当金の総額には、従業員ESOP信託口が保有する当社株式に対する配当金33百万円が含まれております。

(3) 当連結会計年度末の新株予約権（権利行使期間の初日が到来していないものを除く）の目的となる株式の種類及び数

第18回新株予約権

普通株式 1,838千株

第19回新株予約権

普通株式 2,597千株

8. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に関する取組方針

当社グループは、新たな地域や事業領域への進出、既存事業の強化等を目的とした戦略的投資計画及び店舗展開のための設備投資計画に基づく資金計画に照らして、自己資金及び金融機関からの借入により資金調達しております。

また短期的な運転資金は、原則として自己資金により賄っており、余剰資金については、投機的な取引は一切行わず、安全性の高い金融商品に限定して運用しております。

一部の連結子会社である㈱マネースクエアHD及び㈱マネースクエア（以下、マネースクエアグループ）は、外国為替証拠金取引及び株価指数証拠金取引を事業としております。顧客等を相手方とするこれらの取引は、マネースクエアグループが顧客等に対して提示するレートに対して、主にインターネットや電話を通じて注文を受け付け受諾することにより取引が成立いたします。また、マネースクエアグループは、当該取引から生ずる価格変動リスクを回避するため、カウンターパーティーに対してカバー取引を行っております。

② 金融商品の内容及びリスク

売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

賃借物件において預託している敷金及び保証金は、取引先企業等の信用リスクに晒されております。

買掛金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。また、その一部には、商品輸入に伴う外貨建のものがあり、為替の変動リスクに晒されております。

支払手形及び電子記録債務は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、店舗展開のための設備投資を目的としたものであり、このうち一部は変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。

リース債務は、使用権資産の取得に係るものであり、流動性リスクに晒されております。

マネースクエアグループの預託金は、外国為替証拠金取引及び株価指数証拠金取引にかかる顧客から受け入れた取引証拠金等を区分管理及び分別管理するためのものです。信託業務を行っている銀行と顧客区分管理信託契約及び顧客分別金信託契約を締結しておりますが、契約内容が履行されない場合に発生する信用リスクに晒されております。

トレーディング商品は、顧客との取引から生じる為替変動リスクを回避するために外国為替証拠金取引のカウンターパーティーを相手方として行っているカバー取引の決済履行に係る信用リスクに晒されています。また、外貨建資産・負債を含んでいるため、流動性リスク及び為替変動リスクに晒されています。

受入保証金は、顧客から受け入れた取引証拠金の残高ですが、顧客が預け入れた証拠金等以上に損失を被ることにより発生する金銭債権を回収できない可能性を含んだ顧客の信用リスクに晒されています。また、外貨建資産・負債を含んでいるため、流動性リスク及び為替変動リスクに晒されています。

③ 金融商品に係るリスク管理体制

マネースクエアグループでは、金融商品取引法第46条の6に定める自己資本規制比率の管理を基礎に実施しております。

このため、取引先リスク（信用リスク）及び市場リスク（流動性リスク、為替変動リスク）については、金融商品取引業等に関する内閣府令第178条及び「金融商品取引業者の市場リスク相当額、取引先リスク相当額及び基礎的リスク相当額の算出の基準等を定める件」（平成19年金融庁公示第59号）に基づき、毎営業日、これらのリスクをリスク相当額として定量的に算出したうえで自己資本規制比率を算出しております。

外国為替証拠金取引及び株価指数証拠金取引に係るリスク管理体制は、持高管理事務に係る内規に基づき、カバー取引業務を行う部門から独立している管理部門が日次においてポジション及び売買損益の状況をチェックすることにより、カバー取引業務を行う部門に対する牽制を行っております。またその内容については、定期的に取締役会に報告されております。

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループ各社の与信管理規程等に従い、営業債権について、各事業部門における経理業務を所管する部署が、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

マネースクエアグループが行う外国為替証拠金取引及び株価指数証拠金取引は、取引証拠金を顧客から収受しない限り発注できず、かつ取引成立後の市場変動によっては、顧客により持高の全部又は一部を決済するか、もしくは、一定水準において自動ロスカットを行うことになっているため、契約不履行により発生する顧客の信用リスクを大幅に低減しております。

カウンターパーティーとのカバー取引は、信用度の高い金融機関とのみ取引を行っているため、契約不履行によるリスクは少ないものと認識しておりますが、信用状況等の変化をモニタリングすることによって管理を行っております。また、外国為替証拠金取引のカバー取引を行うにあたって、差入保証金の一部を金融機関との支払承諾契約に基づく信用状で代用することにより、現金による差入保証金の金額を抑制し、信用リスクの低減を図っています。さらに、カウンターパーティーの信用状況に起因する出来事により、カバー取引を実施できない事態が発生するリスクを回避するために、カウンターパーティーを複数選定することにより、信用リスクの分散を図っております。

ロ. 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

マネースクエアグループが行う外国為替証拠金取引及び株価指数証拠金取引は、顧客との相対取引であるため、同数量のカバー取引を行うまでの間、価格変動によるリスクを有しております。顧客との取引により生ずるマネースクエアグループの持高については、適時にカウンターパーティーに対してカバー取引を行うことにより価格変動リスクを回避しております。カバー取引は、内規に定めた方法にて実施することで、リスクの低減を図っております。

ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を維持することなどにより流動性リスクを管理しております。

マネースクエアグループは、外国為替証拠金取引のカウンターパーティーとの間でカバー取引を行うに際して必要となる差入保証金の一部を金融機関との支払承諾契約に基づく保証状及び定期預金の担保差入により代用することで、手許流動性を確保し、流動性リスクを管理しております。

④ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2025年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1)売掛金	101,373		
貸倒引当金 (注) 1	△1,106		
	100,267	100,272	5
(2)投資有価証券 (注) 3	28,598	28,598	－
(3)敷金及び保証金	18,621	17,729	△892
資産計	147,486	146,599	△887
(1)長期借入金（1年内返済予定のものを含む）	58,532	58,529	△2
(2)リース債務（流動負債及び固定負債）	17,433	16,400	△1,032
負債計	75,965	74,930	△1,035
デリバティブ取引 (注) 4			
ヘッジ会計が適用されていないもの	21,932	21,932	－
ヘッジ会計が適用されているもの	(4)	(4)	－

(注) 1. 売掛金については対応する貸倒引当金を控除しております。

2. 「現金及び預金」、「未収入金」、「支払手形及び買掛金」、「電子記録債務」、「短期借入金」、「未払金」、「未払法人税等」、「未払消費税等」、「預託金」、「受入保証金」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

3. 市場価格のない株式等、連結貸借対照表に持分相当額を純額で計上する組合その他これに準ずる事業体への出資は、「(2)投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりです。

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式	2,159
投資事業有限責任組合への出資	654

4. デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については（ ）で示しております。

(3) 金融商品の時価の適切な区分ごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

① 時価をもって連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券	28,598	—	—	28,598
資産計	28,598	—	—	28,598
デリバティブ取引				
通貨関連	—	21,561	—	21,561
株価指数関連	—	367	—	367

② 時価をもって連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
売掛金	－	100,272	－	100,272
敷金及び保証金	－	17,729	－	17,729
資産計	－	118,001	－	118,001
長期借入金（1年内返済予定のものを含む）	－	58,529	－	58,529
リース債務	－	16,400	－	16,400
負債計	－	74,930	－	74,930

(注)時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

投資有価証券については相場価格を用いて評価しております。また活発な市場で取引されているため、その時価はレベル1に分類しております。

デリバティブ取引

デリバティブ取引については取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しており、その時価はレベル2に分類しております。

売掛金

売掛金については、債権額、契約期間、信用リスクを加味した利率で割り引いた現在価値により算定しており、その時価はレベル2に分類しております。

敷金及び保証金

敷金及び保証金については、契約期間に基づき、その将来キャッシュ・フローを国債の利率で割り引いた現在価値により算定しており、その時価はレベル2に分類しております。

長期借入金（1年内返済予定のものを含む）

長期借入金については、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、変動金利による借入金については、市場金利を反映し短期間で利率が改定されることから、その時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっており、いずれも時価はレベル2に分類しております。

リース債務

リース債務については、元利金の合計額を、同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、その時価はレベル2に分類しております。

9. 賃貸等不動産に関する注記

当社グループでは、神奈川県及びその他の地域において、賃貸用の不動産を有しております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は420百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

なお、賃貸用の不動産の一部につきましては、当社及び在外子会社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。当連結会計年度における当該賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する賃貸損益は544百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）であります。

賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産の連結貸借対照表計上額及び当連結会計年度における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は次のとおりであります。

(単位：百万円)

連結貸借対照表計上額				連結決算日における時価
	当連結会計年度期首残高	当連結会計年度増減額	当連結会計年度末残高	
賃貸等不動産	2,311	1,670	3,981	4,227
賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産	14,042	△1,119	12,923	15,380

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 当連結会計年度末の時価は、主要な物件については、社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づきます。ただし、直近の評価時点から、一定の評価額や適切に市場価値を反映していると考えられる指標に重要な変動が生じていない場合には、当該評価額や指標を用いて調整した金額によっております。その他の物件については「固定資産税評価額」に基づいて自社で算定した金額（指標等を用いて調整を行ったものを含む。）であります。
3. 当連結会計年度の主な増加は固定資産の取得、主な減少は減価償却によるものであります。

10. 収益認識に関する注記

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							その他 (注)	合計
	デジタル 家電専門店 運営事業	キャリア ショップ 運営事業	インター ネット事業	海外事業	金融事業	プロダクト 事業	計		
家電等販売	215,943	—	18,975	61,963	—	17,514	314,397	7	314,404
携帯電話等販売	81,795	364,639	—	16,780	—	—	463,215	—	463,215
ネットワーク サービス	—	—	50,877	—	—	—	50,877	—	50,877
その他	96	—	—	1,626	112	—	1,834	13,140	14,975
顧客との契約から 生じる収益	297,835	364,639	69,852	80,370	112	17,514	830,324	13,148	843,472
その他の収益	1,338	—	—	988	5,173	—	7,500	2,453	9,954
外部顧客への売上高	299,174	364,639	69,852	81,359	5,285	17,514	837,825	15,602	853,427

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、モール事業、有料衛星放送事業、スポーツ事業、研修事業及びメガソーラー事業等を含めております。
2. 従来より、デジタル家電専門店運営事業の顧客との契約から生じる収益を分解した情報については「家電等販売」及び「携帯電話等販売」並びに「その他」に区分しておりましたが、デジタル家電専門店運営事業における管理区分の変更により、当連結会計年度より「家電等販売」に区分していた一部の収益を「携帯電話等販売」に変更しております。
3. 従来より、インターネット事業の顧客との契約から生じる収益を分解した情報については「家電等販売」及び「ネットワークサービス」並びに「その他」に区分しておりましたが、インターネット事業における管理区分の変更により、当連結会計期間より「その他」に区分していた収益を「ネットワークサービス」に変更しております。

(2) 収益を理解するための基礎となる情報

当社グループでは、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客への財やサービスの移転との交換により、その権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識しております。

- ステップ1：顧客との契約を識別する。
- ステップ2：契約における履行義務を識別する。
- ステップ3：取引価格を算定する。
- ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務に配分する。
- ステップ5：企業が履行義務を充足した時に（又は充足するにつれて）収益を認識する。

当社グループは、家電等や携帯電話等の販売において、主に一般消費者に対して家電製品、携帯電話等の商品の販売を行っており、商品の引渡時点において顧客が支配を獲得し、履行義務が充足されると判断しているため、当該商品の引渡時点で収益を認識しております。

インターネット事業は、ネットワークサービスにおいて、主に一般消費者に対してインターネット接続サービス等の提供を行っており、契約者にサービスを提供するにつれて収益を認識しております。

プロダクト事業は、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、製品等の国内取引において、出荷時から当該製品等の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

なお、当社グループのうち、デジタル家電専門店運営事業及び海外事業において、販売した商品に対して別途の契約に基づく修理等の保証サービスを提供しております。保証サービスを履行義務として識別し、保証期間にわたって履行義務が充足してい

るため、一定期間にわたり収益を認識しております。

また、デジタル家電専門店運営事業は自社ポイント制度の運用を行っておりますが、ポイント制度は顧客にとって重要な権利であると判断したため、ポイントの付与時に別個の履行義務を識別し、通常、顧客によるポイント使用時点で収益を認識しております。

また、インターネット事業においてWEBコンテンツサービスの提供を行っており、そのサービスの提供における役割を代理人と判断し、純額で収益を認識しております。

(3) 当連結会計年度及び翌連結会計年度以降の収益の金額を理解するための情報

① 契約負債の残高等

(単位：百万円)

	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権（期首残高）	84,989
顧客との契約から生じた債権（期末残高）	101,373
契約負債（期首残高）	22,358
契約負債（期末残高）	33,544
前受収益（期首残高）	2,426
前受収益（期末残高）	2,541
長期前受収益（期首残高）	4,612
長期前受収益（期末残高）	1,124

契約負債は、主に保証サービスとポイントの提供に関連するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当連結会計年度において認識した収益のうち、期首の契約負債残高等に含まれていたものは、14,442百万円であります。前受収益は連結貸借対照表上、流動負債の「その他」に含まれております。長期前受収益は連結貸借対照表上、固定負債の「その他」に含まれております。

② 残存履行義務に配分した取引価格

残存履行義務に配分した取引価格の総額及び収益の認識が見込まれる時期は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	当連結会計年度
1年以内	8,409
1年超2年以内	6,950
2年超3年以内	4,905
3年超	7,679
合計	27,945

なお、当社は実務上の便法を適用しており、上記の金額には当初の予想契約期間が1年以内の未充足の履行義務に係る取引価格を含めておりません。

11. 1株当たり情報に関する注記

- | | |
|----------------|-----------|
| (1) 1株当たり純資産額 | 2,110円39銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 334円97銭 |

12. 企業結合に関する注記

(VAIO(株)及びVJホールディングス 3(株)の取得による企業結合)

当社は、2024年11月11日開催の取締役会において、当社の連結子会社である(株)NJM1を通じて、日本産業パートナーズ(株)及びその子会社が管理・運営その他関与するファンドである日本産業第四号投資事業有限責任組合などから、VAIO(株) (以下「VAIO」) 及びVAIO株式を保有するVJホールディングス 3(株) (以下、「VJHD 3」) の株式を取得し、直接または間接的にVAIOの発行済株式数の93.2%にあたる株式を取得する株式譲渡契約を締結することを決議いたしました。当社の連結子会社である(株)NJM1 が2025年1月6日付でVAIO及びVJHD 3の株式を取得し、直接または間接的にVAIOの発行済株式の93.2%を取得し、同社を連結子会社化いたしました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

イ. 被取得企業の名称

VAIO(株)

VJホールディングス 3(株)

ロ. 事業の内容

PC事業：企画、設計、開発、製造及び販売と、それに付随するサービス

②企業結合を行った主な理由

当社グループは、デジタル家電専門店の運営事業を中心に、キャリアショップ事業、インターネット事業、海外事業、金融事業等を通じ、グループシナジーを発揮しつつ、お客様の生活をより豊かに、より快適にお過ごしいただくための新たな付加価値を生み出すご提案に取り組んでまいりました。

VAIOは、国内外におけるPC事業を主力事業とし、企画・設計から製造・販売、アフターサービスに至るまでを一気通貫でのワンストップを強みにしています。また近年は、特に法人向け事業に注力し、事業を拡大しています。今回の株式取得（子会社化）によってVAIOの事業運営方針やお客様との関係に変更はありません。

今後、当社は、VAIOの持続的な事業拡大に向けて、ブランド力と高い品質を維持しながら、VAIOの成長ポテンシャルをさらに引き出せるように、VAIOの経営方針を尊重してまいります。両者の顧客基盤を活用した双方の事業機会の創出・拡大や、当社グループの安定的な財務基盤を生かしたVAIO財務戦略の強化・推進等、それぞれの強みを生かしてグループシナジーを発揮することにより、純国産PCメーカーとしてVAIOの魅力を国内外のお客様にお届けし、IT・デジタル関連商品・サービスの提供を通じて豊かな生活に貢献する「デジタル一番星」を理念に掲げる当社グループの企業価値の更なる向上を目指します。

③企業結合日

2025年1月6日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

⑤結合後企業の名称

変更ありません。

⑥取得した議決権比率

93.2%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社である(株)NJM1が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

(2) 連結損益計算書に含まれている被取得企業の業績の期間

2025年1月1日から2025年3月31日まで

- (3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳
- | | |
|-----------|-----------|
| 取得の対価（現金） | 11,138百万円 |
| 取得原価 | 11,138百万円 |
- (4) 主要な取得関連費用の内容及び金額
アドバイザー費用等 104百万円
- (5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間
- ①発生したのれん
1,866百万円
- ②発生原因
今後の事業展開によって期待される将来の超過収益から発生したものです。
- ③償却方法及び償却期間
20年による均等償却
- (6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその内訳
- | | |
|------|-----------|
| 流動資産 | 36,144百万円 |
| 固定資産 | 15,658百万円 |
| 資産合計 | 51,803百万円 |
| 流動負債 | 39,413百万円 |
| 固定負債 | 2,436百万円 |
| 負債合計 | 41,850百万円 |
- (7) のれん以外の無形資産に配分された金額及びその主要な種類別の内訳並びに加重平均償却期間
- | 主要な種類別の内訳 | 金額 | 加重平均償却期間 |
|-----------|-----------|----------|
| 商標権 | 5,280百万円 | 20年 |
| 顧客関連無形資産 | 8,920百万円 | 16年 |
| 合計 | 14,200百万円 | 17年 |

13. 追加情報

(財務制限条項)

(1) 当社の連結子会社であるコネクシオ㈱が締結した金銭消費貸借契約には、主に次の財務制限条項が付されております。

- ① 各年度の決算期及び中間期の末日における純資産の部の金額を、2023年3月期末の純資産の部の金額及び直前の本決算期の末日又は中間期の末日の純資産の部の金額のいずれか大きい方の75%以上を維持すること。
- ② 各年度の決算期の末日において損益計算書及び貸借対照表において、キャッシュフローが年間返済概算額を上回る状態を維持すること。
- ③ 本決算期に係る損益計算書上の経常損益に関して、2期連続損失を計上しないこと。
なお、当該契約の契約金額及び借入残高は、次のとおりであります。

契約金額	44,600百万円
借入金残高	6,376百万円
1年内長期借入金	31,036百万円
長期借入金	

(2) 当社の連結子会社である㈱NJM1が締結した特殊当座借越契約には、次の財務制限条項が付されております。

- ① 2025年2月28日付の合併公告に係る債権者保護手続きが完了するまでの間、決済口座からの出金を行わないこと。
- ② ㈱NJM1は、貸付人が事前に承諾した場合を除き、㈱ノジマの連結子会社であること。
なお、当該契約の契約金額及び借入残高は、次のとおりであります。

契約金額	8,000百万円
借入金残高	8,000百万円

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、中長期的な企業価値を高めること及び従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引（以下「本制度」という。）を行っております。

① 取引の概要

当社は、中長期的な企業価値を高めることを目的として、本制度を2024年8月に導入しております。本制度では、「ネックス社員持株会」（以下「当社持株会」という。）へ当社株式を譲渡していく目的で設立する従業員持株ESOP信託口が、2024年8月から2027年8月（予定）にわたり当社持株会が取得する規模の株式を予め一括して取得し、当社持株会へ売却を行います。

② 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、当連結会計年度2,543百万円、1,336千株であります。

③ 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

当連結会計年度2,631百万円

14. 重要な後発事象

(取得による企業結合)

当社は、2025年2月28日開催の取締役会において、当社の連結子会社である㈱NJM 2を通じて、BCPE Ocean Cayman, L.P.などから、㈱ストリートホールディングス（以下「ストリートHD」）の全ての発行済株式を保有する㈱BCJ-59の全株式を取得することで、ストリートHDを子会社化することについて決議いたしました。当社の連結子会社である㈱NJM 2が2025年4月2日付で㈱BCJ-59の株式を取得し、同社及びストリートHDを連結子会社化いたしました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称

㈱ストリートホールディングス

㈱BCJ-59

事業の内容

ダイレクトマーケティング事業

デジタルトランスフォーメーション事業

D2C事業

② 企業結合を行った主な理由

当社グループはデジタル家電専門店の運営事業を中心に、キャリアショップ運営事業、インターネット事業、海外事業、金融事業等を通じ、グループシナジーを発揮しつつ、お客様の生活をより豊かに、より快適にお過ごしいただくための新たな付加価値を生み出すサービスを提供しております。

ストリートHDは、ダイレクトマーケティング事業を中心に、デジタルマーケティング及びDXの支援を行うデジタルトランスフォーメーション事業、小売店及び卸売事業等の展開を行うD2C事業を手掛けております。ストリートHDがデジタルトランスフォーメーション事業において効果的な広告を打つ機能を保有していることで、ノジマグループの販促活動の効率化を図ることができます。また、ダイレクトマーケティング事業により施策立案から効果分析を行う広告活動も可能となり、さらなるお客様満足度向上を図ることが見込めると期待し、このたびの株式取得を決定いたしました。

③ 企業結合日

2025年4月2日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式の取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100.0%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社である㈱NJM 2が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価（現金）	7,000百万円（概算額）
-----------	---------------

取得原価	7,000百万円（概算額）
------	---------------

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	140百万円（概算額）
-----------	-------------

- (4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間
現時点では確定しておりません。
- (5) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳
現時点では確定しておりません。

(譲渡制限付株式報酬制度の導入)

当社は、2025年5月20日開催の取締役会において、役員報酬制度の見直しを行い、当社の取締役及び執行役（以下「対象役員」といいます。）並びに当社子会社の取締役、監査役及び執行役員（以下「対象子会社役員」といい、「対象役員」と併せて「対象役員等」と総称します。）を対象とした譲渡制限付株式報酬制度（以下「本制度」といいます。）の導入を決議しました。

(1) 本制度の導入目的

当社は、役員報酬制度の見直しに伴い、従来のストックオプション制度を変更し、譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決定いたしました。

本制度は、対象役員等に対して当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的とした制度です。

(2) 本制度の概要

本制度に基づき対象役員に対して支給する報酬は、①当社の普通株式あるいは②当社の普通株式を取得するための現物出資財産としての金銭債権とし、対象子会社役員に対して支給する報酬は当社の普通株式を取得するための現物出資財産としての金銭債権とし、対象役員等は当社の取締役会の決議に基づき、当社の普通株式について発行又は処分を受けることとなります。

本制度に基づき支給される報酬として、対象役員に対して、金銭債権を支給せずに当社の普通株式を支給する場合、当該普通株式は、対象役員の報酬として発行又は処分されるものであり、当該普通株式と引換えにする現物出資財産としての金銭債権の払込みを要しないものといたしますが、対象役員に対して支給する当社普通株式の額は、当社の普通株式の発行又は処分に係る各取締役会決議の日の前営業日における東京証券取引所における当社の普通株式の終値（同日に取引が成立していない場合は、それに先立つ直近取引の終値）を基礎として当該発行又は処分される当社の普通株式1株当たりの金額として算出いたします。

一方、本制度に基づき支給される報酬として、対象役員等に対して、当社の普通株式を取得するための現物出資財産としての金銭債権を支給する場合には、対象役員等は、当社の報酬委員会又は当社子会社の取締役会の決議に基づき、本制度により支給される金銭債権の全部を現物出資財産として払い込み、当社の普通株式について発行又は処分を受けるものといたします。この場合における1株当たりの払込金額は、各取締役会決議の日の前営業日における東京証券取引所における当社の普通株式の終値（同日に取引が成立していない場合は、それに先立つ直近取引日の終値）を基礎として当該普通株式を引き受ける対象役員等に特に有利な金額とならない範囲において、報酬委員会において決定します。

なお、各対象役員等への具体的な支給時期及び配分については、報酬委員会において決定いたします。

また、本制度による当社の普通株式（以下「本株式」といいます。）の発行又は処分及びその現物出資財産としての金銭債権の支給に当たっては、当社と対象役員等との間において、①一定期間（以下「譲渡制限期間」といいます。）、本株式に係る第三者への譲渡、担保権の設定その他一切の処分を禁止すること、②一定の事由が生じた場合には当社が本株式を無償取得することなどをその内容に含む譲渡制限付株式割当契約が締結されることを条件といたします。本株式は、譲渡制限期間中の譲渡、担保権の設定その他の処分をすることができないよう、譲渡制限期間中は、対象役員等が野村證券株式会社開設する専用口座で管理される予定です。

独立監査人の監査報告書

2025年5月23日

株式会社 ノ ジ マ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
横浜事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 西 川 福 之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 前 川 邦 夫

監査意見

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社ノジマの2024年4月1日から2025年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ノジマ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結計算書類に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結計算書類を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

連結計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結計算書類の注記事項が適切でない場合は、連結計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結計算書類の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結計算書類の表示、構成及び内容、並びに連結計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結計算書類に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結計算書類の監査を計画し実行する。監査人は、連結計算書類の監査に関する指揮、監督及び査問に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

連結計算書類に係る監査報告書

当監査委員会は、2024年4月1日から2025年3月31日までの第63期事業年度における連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査委員会は、監査委員会が定めた監査委員会監査の基準に準拠し、当期の監査方針、職務の分担等に従い、連結計算書類について執行役等から報告を受け、必要に応じて説明を求めました。さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る連結計算書類につき検討いたしました。

2. 監査の結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2025年5月23日

株式会社	ノジマ	監査委員会
監査委員	平本和生	
監査委員	堀内文子	
監査委員	柴原多	
監査委員	井上幸夫	

（注）監査委員 平本和生、堀内文子、柴原多及び井上幸夫は、会社法第2条第15号及び第400条第3項に規定する社外取締役であります。

貸借対照表 (2025年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部	金 額
科 目	金 額
流動資産	126,633
現金及び預金	23,987
売掛金	24,939
商品及び製品	44,049
原材料及び貯蔵品	232
前払費用	1,462
関係会社短期貸付金	18,669
未収入金	12,759
その他	540
貸倒引当金	△7
固定資産	151,458
有形固定資産	35,344
建物	14,749
構築物	947
機械装置	179
車両運搬具	61
器具備品	2,729
土地	15,871
建設仮勘定	805
無形固定資産	1,233
ソフトウェア	1,220
その他	13
投資その他の資産	114,881
投資有価証券	27,942
関係会社株式	70,077
関係会社長期貸付金	35
長期前払費用	109
繰延税金資産	5,676
敷金及び保証金	10,866
保険積立金	22
その他	151
資産合計	278,092

負 債 の 部	金 額
科 目	金 額
流動負債	80,823
買掛金	28,685
短期借入金	720
1年内返済予定の長期借入金	3,706
未払金	5,633
未払法人税等	5,490
未払消費税等	1,891
未払費用	431
前受金	6,180
前受収益	2,421
預り金	12,711
契約負債	11,961
ポイント引当金	989
固定負債	35,203
長期借入金	11,886
契約負債	13,626
退職給付引当金	6,038
役員退職慰労引当金	192
預り保証金	2,274
資産除去債務	272
その他	912
負債合計	116,026
純 資 産 の 部	金 額
株主資本	155,600
資本金	6,330
資本剰余金	5,245
資本準備金	5,245
利益剰余金	154,605
利益準備金	80
その他利益剰余金	154,525
土地圧縮積立金	144
固定資産圧縮積立金	38
別途積立金	97
繰越利益剰余金	154,244
自己株式	△10,580
評価・換算差額等	3,639
その他有価証券評価差額金	3,639
新株予約権	2,825
純資産合計	162,065
負債・純資産合計	278,092

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売上高		314,342
売上原価		226,712
売上総利益		87,629
販売費及び一般管理費		69,689
営業利益		17,939
営業外収益		
受取利息及び配当金	5,140	
仕入割引	2,574	
雑収入	696	8,411
営業外費用		
支払利息	80	
寄付金	128	
支払手数料	22	
雑損失	82	313
経常利益		26,037
特別利益		
新株予約権戻入益	291	
固定資産売却益	0	291
特別損失		
減損損失	301	
店舗閉鎖損失	16	318
税引前当期純利益		26,010
法人税、住民税及び事業税	7,015	
法人税等調整額	△562	6,452
当期純利益		19,557

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書 (2024年4月1日から2025年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金		その他利益剰余金			
					土地圧縮積立金	固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金
当期首残高	6,330	5,245	－	80	144	41	97	138,409
事業年度中の変動額								
固定資産圧縮積立金の取崩						△2		2
剰余金の配当								△3,702
当期純利益								19,557
自己株式の取得								
自己株式の処分			△22					
利益剰余金から資本剰余金への振替			22					△22
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）								
事業年度中の変動額合計	－	－	－	－	－	△2	－	15,835
当期末残高	6,330	5,245	－	80	144	38	97	154,244

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当期首残高	△6,293	144,054	482	482	2,612	147,149
事業年度中の変動額						
固定資産圧縮積立金の取崩		－				－
剰余金の配当		△3,702				△3,702
当期純利益		19,557				19,557
自己株式の取得	△6,292	△6,292				△6,292
自己株式の処分	2,005	1,982				1,982
利益剰余金から資本剰余金への振替		－				－
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額（純額）			3,157	3,157	212	3,369
事業年度中の変動額合計	△4,287	11,545	3,157	3,157	212	14,915
当期末残高	△10,580	155,600	3,639	3,639	2,825	162,065

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 資産の評価基準及び評価方法

- ① 関係会社株式
- ② その他有価証券

- ・市場価格のない株式等以外のもの
- ・市場価格のない株式等

- ・投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)

- ③ 棚卸資産
 - ・商品

移動平均法による原価法を採用しております。

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法による原価法)を採用しております。

移動平均法による原価法を採用しております。

組合契約に規定される決算報告書に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	10年～47年
構築物	10年～15年
機械装置	17年
車両運搬具	2年～6年
器具備品	2年～15年

- ② 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

ソフトウェア	5年
--------	----

(3) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権は貸倒実績率により、貸倒懸念債権及び破産更生債権等の特定債権は、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

- ② ポイント引当金

顧客の来店等に応じて付与するポイント制度に基づき、将来のポイント使用による費用の発生に備えるため、過去の実績を基礎にして将来使用されると見込まれる額を計上しております。

- ③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当期末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異については、発生年度に費用処理しております。

- ④ 役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 収益及び費用の計上基準

当社は、以下の5ステップアプローチに基づき、顧客への財やサービスの移転との交換により、その権利を得ると見込む対価を反映した金額で収益を認識しております。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：取引価格を契約における別個の履行義務に配分する。

ステップ5：企業が履行義務を充足した時に（又は充足するにつれて）収益を認識する。

当社は、家電等や携帯電話等の販売において、主に一般消費者に対して家電製品、携帯電話等の商品の販売を行っており、商品の引渡時点において顧客が支配を獲得し、履行義務が充足されると判断しているため、当該商品の引渡時点で収益を認識しております。

なお、当社は販売した商品に対して別途の契約に基づく修理等の保証サービスを提供しております。保証サービスを履行義務として識別し、保証期間にわたって履行義務が充足しているため、一定期間にわたり収益を認識しております。

また、当社は自社ポイント制度の運用を行っておりますが、ポイント制度は顧客にとって重要な権利であると判断したため、ポイントの付与時に別個の履行義務を識別し、通常、顧客によるポイント使用時点で収益を認識しております。

2. 会計方針の変更に関する注記

（「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用）

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用しております。法人税等の計上区分に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による計算書類への影響はありません。

3. 表示方法の変更に関する注記

該当事項はありません。

4. 会計上の見積りに関する注記

（関係会社株式の評価）

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

関係会社株式	70,077百万円
--------	-----------

(2) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

多くの関係会社株式の帳簿価額には、取得時点で見込んだ関係会社の将来の超過収益力が反映されております。当該超過収益力には、連結計算書類に計上されている無形資産及びのれんと同様の主要な仮定が含まれております。関係会社株式の減損処理の要否は、取得価額と超過収益力を反映した実質価額を比較することにより判定されており、実質価額が著しく低下した場合には、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて減損処理を行っております。

超過収益力の算定にあたって使用した主要な仮定は、経営者の最善の見積りによって決定されますが、将来の不確実な経済条件の変動により影響を受ける可能性があります。各関係会社の属する市場環境や競合他社の状況により、減損損失の計上が必要となり、翌事業年度の関係会社株式の金額に重要な影響を与える可能性があります。

（店舗等の固定資産の減損）

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

デジタル家電専門店運営事業の固定資産	21,298百万円
--------------------	-----------

デジタル家電専門店運営事業の減損損失	301百万円
--------------------	--------

(2) その他見積りの内容に関する理解に資する情報

(1)の金額の算出方法は、連結注記表「4. 会計上の見積りに関する注記(店舗等の固定資産の減損)」の内容と同一であります。

5. 貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額

29,625百万円

(2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

区分表示されたものの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

- | | |
|----------|-----------|
| ① 短期金銭債権 | 5,113百万円 |
| ② 長期金銭債権 | 63百万円 |
| ③ 短期金銭債務 | 12,609百万円 |
| ④ 長期金銭債務 | 75百万円 |

(3) 取締役に対する金銭債権

短期金銭債権 6百万円

(4) コミットメントライン等

当社は、運転資金の機動的かつ安定的な調達を可能にするため、主要取引金融機関と当座貸越契約及び3年間の貸出コミットメント契約を締結しております。

これらの契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

借入枠	40,000百万円
借入実行残高	－百万円
差引借入未実行残高	40,000百万円

6. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高

(1) 営業取引による取引高

- | | |
|--------------|-----------|
| ① 売上高 | 2,819百万円 |
| ② 仕入高 | 678百万円 |
| ③ 販売費及び一般管理費 | △1,407百万円 |

(2) 営業取引以外の取引による取引高 4,759百万円

7. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の数に関する事項

株 式 の 種 類	当事業年度期首の株式数 (千株)	当事業年度増加株式数 (千株)	当事業年度減少株式数 (千株)	当事業年度末の株式数 (千株)
普通株式	4,693	1,860	1,096	5,457
ESOP信託口が保有する 普通株式	－	1,573	236	1,336
合計	4,693	3,434	1,333	6,794

(注) 1. 当社が所有する普通株式の増加株式数は、自己株式の取得（株式数1,860,900株）及び単元未満株式の買取（株式数72株）によるものであります。

2. 当社が所有する普通株式の減少株式数は、ストックオプションの行使によるものであります。

3. ESOP信託口が保有する当社の普通株式の増加株式数は、市場からの買付け（株式数1,573,500株）によるものであります。

4. ESOP信託口が保有する当社の普通株式の減少株式数は、当社持株会への売却によるものであります。

8. 収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「1. 重要な会計方針に係る事項(4) 収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

9. 税効果会計に関する注記

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生 の主な原因別の内訳

繰延税金資産	(百万円)
退職給付引当金	1,900
役員退職慰労引当金	60
投資有価証券評価損	23
未払事業税	307
商品評価損	397
契約負債	3,006
ポイント引当金	302
未払事業所税	58
仕入割戻繰延	56
減損損失	968
前受収益	894
関係会社株式評価損	1,381
その他	1,238
繰延税金資産小計	10,596
評価性引当額	△3,043
繰延税金資産合計	7,552
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	1,765
土地圧縮積立金	63
固定資産圧縮積立金	17
その他	29
繰延税金負債合計	1,876
繰延税金資産純額	5,676

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	31.5%
評価性引当額の増減	0.2%
住民税均等割額	0.7%
交際費等永久に損金不算入の項目	0.2%
受取配当金等永久に益金不算入の項目	△9.8%
新株予約権	1.0%
外国子会社合算税制	1.4%
税率変更による期末繰延税金資産の増減	△0.3%
その他	△0.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.8%

(3) 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する事業年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

この変更により、当事業年度の繰延税金資産(繰延税金負債の金額を控除した金額)が、74百万円増加し、法人税等調整額が同額減少しております。

10. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称又は氏名	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	アイ・ティー・エックス(株)	直接 100.0	役員の兼任	CMS (注 1、2)	-	流動負債 預り金	1,167
子会社	ITXコミュニケーションズ(株)	直接 100.0	役員の兼任	資金の返済 (注 2)	2,000	-	-
				CMS (注 1、2)	-	流動負債 預り金	1,510
子会社	コネクシオ(株)	直接 100.0	役員の兼任	資金の回収 (注 2)	44,600	-	-
子会社	ニフティ(株)	直接 100.0	役員の兼任	資金の返済 (注 2)	3,000	流動負債 預り金	3,500
				CMS (注 1、2)	-	流動負債 預り金	2,557
				受取配当金	3,000	-	-
子会社	㈱NJM 1	直接 100.0	役員の兼任	資金の貸付 (注 2)	12,000	流動資産 関連会社短期貸付金	12,000
子会社	VAIO(株)	直接 94.6	役員の兼任	資金の貸付 (注 2)	6,500	流動資産 関連会社短期貸付金	6,500
子会社	Nojima APAC Limited	直接 100.0	役員の兼任	資金の返済 (注 2)	271	流動負債 預り金	2,625
非連結 子会社	3PLATZ(株)	直接 49.0	役員の兼任	債権回収代行	3,165	流動資産 未収入金	3,086

- (注) 1. 当社グループはグループ内の資金管理の効率化を図ることを目的としてCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）を導入しております。CMSを用いた資金取引について取引の内容ごとに取引金額を集計することは実務上困難であるため、取引金額は記載しておりません。
2. 資金の貸付、回収、返済及びCMSについては、市場金利を勘案して利率を合理的に決定しています。

(2) 役員及び個人主要株主等

種類	氏名	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
役員	野島 廣司	直接 2.9	当社取締役兼代表執行役社長	ストック・オプションの権利行使 (注1)	11 (13,600株)	-	-
役員	福田 浩一郎	直接 0.1	当社取締役兼代表執行役副社長 (注2)	ストック・オプションの権利行使 (注1)	79 (60,400株)	-	-
役員	温盛 元	直接 0.1	当社取締役兼代表執行役専務	ストック・オプションの権利行使 (注1)	11 (13,400株)	-	-
役員	山田 隆持	直接 0.0	当社社外取締役	ストック・オプションの権利行使 (注1)	11 (8,800株)	-	-
役員	池田 匡紀	直接 0.0	当社社外取締役	ストック・オプションの権利行使 (注1)	11 (8,400株)	-	-

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 2019年6月14日、2020年6月19日及び2021年6月17日開催の定時株主総会の決議により発行した会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づく新株予約権(ストック・オプション)の権利行使であります。
2. 福田浩一郎は、2025年2月1日に当社取締役を退任しております。

11. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 1,662円48銭
(2) 1株当たり当期純利益 202円88銭

12. 追加情報

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)
連結注記表に記載しているため、記載を省略しております。

13. 重要な後発事象

(譲渡制限付株式報酬制度の導入)
連結注記表に記載しているため、記載を省略しております。

独立監査人の監査報告書

2025年5月23日

株式会社 ノ ジ マ
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
横浜事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 西 川 福 之
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士 前 川 邦 夫

監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社ノジマの2024年4月1日から2025年3月31日までの第63期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。
当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類等に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

当監査委員会は、2024年4月1日から2025年3月31日までの第63期事業年度における取締役及び執行役の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

監査委員会は、会社法第416条第1項第1号ロ及びホに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について取締役及び執行役並びに使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明し、かつ、監査委員会が定めた監査委員会監査の基準に準拠し、当期の監査方針、職務の分担等に従い、会社の内部監査部門その他内部統制所管部門と関係のうえ、重要な会議等における意思決定の過程及び内容、主要な決裁書類その他業務執行に関する重要な書類等の内容、執行役（及び主要な使用人等）の職務執行の状況、並びに会社の業務及び財産の状況を調査いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書につき検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役及び執行役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会の決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容並びに取締役及び執行役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任監査法人トーマツの監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2025年5月23日

株式会社 ノジマ 監査委員会

監査委員 平本和生

監査委員 堀内文子

監査委員 柴原多

監査委員 井上幸夫

(注) 監査委員 平本和生、堀内文子、柴原多及び井上幸夫は、会社法第2条第15号及び第400条第3項に規定する社外取締役であります。

以上

第1号議案 定款一部変更の件

1. 提案の理由
- 今後の事業展開の多様化に対応するため、現行定款第2条（目的）に事業内容を追加する
ものであります。
2. 変更の内容
- 変更の内容は、次のとおりであります。

（下線は変更部分を示しております。）

現 行 定 款	変 更 案
（目的）	（目的）
第2条	第2条
当会社は、次の事業を営むことを目的とする。	（現行どおり）
1. ～36.（省略）	1, ～36.（現行どおり）
（新設）	<u>37, 企業の合併、買収及びその関連事業に関するコン</u>
	<u>サルティング</u>
（新設）	<u>38, 投資先企業への営業支援、アドバイザー業務及</u>
	<u>びその関連するコンサルティング業務</u>
<u>37,～40.（省略）</u>	<u>39,～42,（現行37～40どおり）</u>

第2号議案 取締役14名選任の件

現任の取締役14名全員が、本総会終結の時をもって任期満了となります。つきましては、指名委員会の決定に基づき、14名の取締役選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
1	の じ ま ひ ろ し 野 島 廣 司 (1951年1月12日生)	1973年 4 月 有限会社野島電気商会（現当社）入社 1978年 8 月 当社取締役 1994年 7 月 当社代表取締役社長 2002年 5 月 当社代表取締役社長（CEO）兼執行役員 管理統括本部長 2003年 6 月 当社取締役兼代表執行役社長（CEO） 兼管理統括本部長 2005年 5 月 当社取締役兼代表執行役社長（CEO） 2006年 4 月 当社取締役兼代表執行役会長（CEO） 2007年 6 月 当社取締役兼代表執行役会長兼社長（CEO） 2008年 6 月 当社取締役兼代表執行役社長（CEO）（現任） 2015年 3 月 アイ・ティー・エックス株式会社取締役 2017年 4 月 同社代表取締役社長 ニフティ株式会社取締役 2019年 3 月 Courts Asia Limited Chairman, Group CEO（現 Nojima APAC Limited）（現任） 2020年 6 月 スルガ銀行株式会社取締役副会長 2021年 5 月 アイ・ティー・エックス株式会社取締役相 談役（現任） 10月 I T X コミュニケーションズ株式会社取締 役相談役（現任） 2023年 1 月 株式会社マネースクエアHD取締役（現任） 3 月 コネクシオ株式会社取締役（現任） 2025年 1 月 VAI O株式会社取締役（現任） 2025年 4 月 株式会社ストリートホールディングス取締 役（現任） （重要な兼職の状況） Nojima APAC Limited Chairman, Group CEO	2,821,800株 (183,104株) (注3)

【取締役候補者とした理由】

野島廣司氏につきましては、当社及び当社グループ会社の取締役として、長年にわたり経営全般に携わっており、当社グループの事業分野における豊富な経験と幅広い知見を当社グループの経営に活かせるものと期待し、取締役候補者としたしました。

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
2	ぬく もり はじめ 温 盛 元 (1972年5月14日生)	1996年 4 月 当社入社 2005年 6 月 当社執行役経営企画グループ長 2007年 2 月 当社執行役管理本部人事総務統括兼総務 企画グループ長 6 月 当社執行役人事総務部長兼総務グループ長 2011年 10月 当社営業支援グループ長 2012年 10月 当社営業開発部長 2013年 5 月 当社執行役営業開発部長 2014年 6 月 当社取締役兼執行役営業開発部長兼海外事業担当 2015年 4 月 当社取締役兼執行役営業開発部長 2017年 10月 当社取締役兼常務執行役営業開発部長 2024年 3 月 当社取締役兼代表執行役専務営業開発部長 2024年 4 月 当社取締役兼代表執行役専務 営業開発部管掌 兼 関連事業推進室担当 2025年 2 月 当社取締役兼代表執行役専務商品ソリュ ーション推進部長兼関連事業推進部長 (現任) [担当(委員)] 報酬委員(委員長)	130,000株 (5,146株) (注3)
		【取締役候補者とした理由】 温盛元氏につきましては、当社の取締役として経営に携わっており、主に仕入れや商品戦略分野における知見、能力及び組織運営経験を当社グループの経営に活かせるものと期待し、取締役候補者といいたしました。	
候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
3	くに い ひろ ふみ 國 井 弘 文 (1988年6月26日生)	2011年 4 月 当社入社 2019年 2 月 当社販買推進部第二部長 8 月 当社執行役販買推進部第一部長 2020年 8 月 当社執行役販買推進部長 2021年 6 月 当社取締役兼執行役販買推進部長 2024年 6 月 当社取締役兼常務執行役販買推進部長(現任) [担当(委員)] 指名委員(委員長)	27,800株 (70株) (注3)
		【取締役候補者とした理由】 國井弘文氏につきましては、当社の取締役として販売推進部門に携わっており、販売推進部門における知見、能力及び組織運営経験を当社グループの経営に活かせるものと期待し、取締役候補者といいたしました。	

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
4	いし はら あや こ 石 原 彩 子 (1987年1月29日生)	2005年 4 月 当社入社 2020年 12月 当社サービスイノベーション部長 2021年 10月 当社執行役サービスイノベーション部長 2024年 6 月 当社取締役兼執行役サービスイノベーション部長 2025年 2 月 当社取締役兼執行役 M&Cソリューション 推進部長兼サービスイノベーション部長 (現任) [担当 (委員)] 指名委員	15,500株 (65株) (注3)

【取締役候補者とした理由】

石原彩子氏につきましては、当社の取締役として仕入れ、商品戦略分野及びカスタマーサービスにおける知見、能力及び組織運営経験を当社グループの経営に活かせるものと期待し、取締役候補者いたしました。

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
5	やま ね じゅん いち 山 根 純 一 (1982年3月14日生)	2010年10月 当社入社 2020年 6 月 当社 ITシステム部長 2021年 4 月 当社執行役 ITシステム部長 2022年 6 月 当社取締役兼執行役ITシステム部長 (現任)	6,000株 (630株) (注3)

【取締役候補者とした理由】

山根純一氏につきましては、当社の取締役としてITシステム部門に携わっており、ITシステム部における知見、能力及び組織運営経験を当社グループの経営に活かせるものと期待し、取締役候補者いたしました。

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
6	はた の ひろ あき 幡 野 裕 明 (1975年3月3日生)	2009年 3 月 新創監査法人入所 2012年 10月 公認会計士登録 2021年 5 月 同法人パートナー 2022年 1 月 当社入社 財務経理部長付 2022年 6 月 当社執行役財務経理部長 2024年 6 月 当社取締役兼執行役 財務経理部長 (現任) [担当 (委員)] 報酬委員	1,000株 (398株) (注3)

【取締役候補者とした理由】

幡野裕明氏につきましては、公認会計士であり、当社の取締役として財務経理部門に携わっており、財務経理における知見、能力及び組織運営経験を当社グループの経営に活かせるものと期待し、取締役候補者いたしました。

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
7	ひら もと かず お 平 本 和 生 (1945年10月16日生)	1969年 4 月 株式会社東京放送（現株式会社 T B S ホールディングス）入社 1999年 6 月 同社報道局長 2003年 6 月 同社取締役 2005年 6 月 同社常務取締役 2008年 6 月 同社専務取締役 2009年 6 月 株式会社BS-TBS代表取締役社長 2014年 6 月 同社取締役会長 2018年 6 月 当社社外取締役（現任） 2021年 10月 A X N株式会社取締役（非業務執行）（現任） 株式会社 A X Nエンタテインメント取締役（非業務執行）（現任） 2025年 1 月 VAI O株式会社監査役（現任） 2025年 4 月 株式会社ストリートホールディングス 監査役（現任） [担当（委員）] 監査委員（委員長） 指名委員・報酬委員	6,000株 (一)
【社外取締役候補者とした理由】 平本和生氏につきましては、放送業界における会社経営で培われた豊富なビジネス経験・知識等を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者といたしました。同氏の当社社外取締役在任期間は本総会終結の時をもって7年になります。なお、当社は、平本和生氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
8	やま だ りゅう じ 山 田 隆 持 (1948年5月5日生)	1973年 4 月 日本電信電話公社（現日本電信電話株式会 社）入社 2001年 6 月 西日本電信電話株式会社取締役設備部長 2002年 6 月 同社常務取締役ソリューション営業本部長 2004年 6 月 日本電信電話株式会社代表取締役副社長 2007年 6 月 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ（現 株式会社NTTドコモ）代表取締役副社長 2008年 6 月 同社 代表取締役社長 2014年12月 大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社取 締役（現任） 2015年 5 月 一般社団法人総合研究フォーラム代表理事（現任） 2018年 6 月 株式会社NTTドコモシニアアドバイザー 2019年 6 月 当社社外取締役（現任） [担当（委員）] 指名委員・報酬委員	8,800株 (－)
【社外取締役候補者とした理由等】 山田隆持氏につきましては、通信業界における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験、知識等を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者といたしました。同氏の当社社外取締役在任期間は本総会終結の時をもって6年になります。なお、当社は、山田隆持氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
9	ほり うち ふみ こ 堀 内 文 子 (1966年6月21日生)	1989年10月 有限責任監査法人トーマツ入所 1993年 3 月 公認会計士登録 1996年 7 月 デロイトトーマツコンサルティング合同会社入社 1999年 4 月 ダイムラークライスラー日本ホールディング株式会社入社 8 月 公認会計士登録 (現任) 2001年 8 月 KVV株式会社 (現Coltテクノロジーサービス株式会社)入社 2005年 2 月 有限会社淡路会計事務所取締役 2006年 9 月 税理士法人トーマツ入所 2012年 6 月 税理士登録 (現任) 2013年 5 月 ロバートウォルターズジャパン株式会社入社 2014年 4 月 立野経営会計事務所入所 2016年12月 税理士法人MSAパートナーズ設立社員 2018年12月 同法人代表社員 2020年 6 月 当社社外取締役 (現任) 2023年 1 月 株式会社マネースクエアHD監査役 (現任) 2024年 9 月 堀内文子 公認会計士・税理士事務所代表 (現任) [担当 (委員)] 監査委員・報酬委員	6,000株 (一)
【社外取締役候補者とした理由等】 堀内文子氏につきましては、長年にわたる税理士としての豊富な経験と会計税務に関する専門知識を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者といたしました。同氏の当社社外取締役在任期間は、本総会終結の時をもって5年になります。なお、当社は、堀内文子氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
10	しば はら まさる 柴 原 多 (1973年9月10日生)	1999年 4 月 東京弁護士会登録 ときわ総合法律事務所（現西村あさひ法律 事務所・外国法共同事業）入所 2008年 1 月 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パ ートナー弁護士（現任） 2018年 4 月 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス非常勤講 師（現任） 2022年 6 月 当社社外取締役（現任） 2023年 8 月 ビヨンドアーチパートナーズ株式会社 社外取締役（現任） [担当（委員）] 監査委員 （重要な兼職の状況） 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業パートナー弁護士（注2）	— (—)
【社外取締役候補者とした理由等】 柴原多氏につきましては、長年にわたる弁護士としての豊富な経験と法律に関する専門知識等を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者となりました。同氏の当社社外取締役在任期間は、本総会終結の時をもって3年になります。なお、当社は、柴原多氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
11	はやし ふみ こ 林 文 子 (1946年5月5日生)	1987年 3 月 ビー・エム・ダブリュー株式会社東京事業部 (現ビー・エム・ダブリュー東京株式会社) 入社 1993年 1 月 ビー・エム・ダブリュー東京株式会社新宿支 店長 1999年 2 月 ファーレン東京株式会社 (現フォルクスワー ゲンジャパン販売株式会社) 代表取締役社長 2003年 8 月 ビー・エム・ダブリュー東京株式会社代表取 締役社長 2005年 5 月 株式会社ダイエー代表取締役会長兼CEO 2008年 5 月 日産自動車株式会社執行役員 7 月 東京日産自動車販売株式会社代表取締役社長 2009年 8 月 横浜市長 2014年 4 月 指定都市市長会会長 2022年 6 月 当社社外取締役 (現任)	— (—)
【社外取締役候補者とした理由等】 林文子氏につきましては、販売業界における会社経営等と指定都市である横浜市の市長3期の任期で培われた豊富なビジネス経験・知識や幅広い見識等を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者としたしました。同氏の当社社外取締役在任期間は、本総会終結の時をもって3年になります。なお、当社は、林文子氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
12	おか ぎき そう いち 岡 崎 双 一 (1958年10月10日生)	1981年 3 月 イオン株式会社入社 1995年 7 月 同 社 GUANGDONG JUSCO TEEM STORES CO., LTD. 取締役 2001年 6 月 同社JAYA JUSCO STORES SDN.BHD. 取 締役社長 2005年 7 月 同社 執行役 スーパーセンター事業本部長 2005年11月 イオンスーパーセンター株式会社 代表取締 役社長 2009年 4 月 イオンリテール株式会社 取締役 営業企画 本部長 2011年 5 月 イオンモール株式会社 代表取締役社長 2014年 3 月 イオン株式会社 GMS事業最高経営責任者 兼ディベロッパー事業最高経営責任者 兼アジアシフト推進責任者 2015年 2 月 イオンリテール株式会社 代表取締役社長 2019年 3 月 同社 取締役会長 イオン株式会社 代表執行役副社長 GMS事業担当・国際事業担当 2020年 3 月 イオンリテール株式会社 執行役アセアン担当 2024年 8 月 OS アドバイザリー・ラボ 代表（現任）	— (—)
【社外取締役候補者とした理由等】 岡崎双一氏につきましては、小売事業における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い 見識等を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者といたしました。なお、当社は、岡 崎双一氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出る予定です。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
13	いわ み ひろ ゆき 岩 見 博 之 (1954年4月7日生)	1979年 4 月 株式会社住友銀行（現株式会社三井住友銀行）入行 1999年 10月 同行日本橋法人営業第三部長 2002年 6 月 同行法人業務部外国業務推進室長 2002年 12月 同行外国業務部長 2004年 4 月 同行ソウル支店長 2007年 4 月 同行執行役員本店営業第三部長 2010年 4 月 同行常務執行役員 2010年 7 月 同行常務執行役員欧州本部長兼欧州三井住友銀行社長 2013年 8 月 同行常務執行役員欧州三井住友銀行副会長 2014年 5 月 SMBC日興証券株式会社顧問 2014年 8 月 同社常務執行役員 事業法人・投資銀行副統轄 2015年 1 月 同社専務取締役 事業法人・投資銀行統轄 2017年 7 月 株式会社日本経済新聞社 Special Executive Officer 2024年 6 月 株式会社ヤマタネ 社外取締役（現任） (重要な兼職の状況) 株式会社ヤマタネ 社外取締役（注2）	— (—)
【社外取締役候補者とした理由等】 岩見博之氏につきましては、金融事業における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い見識等を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者といたしました。なお、当社は、岩見博之氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出る予定です。			

候補者 番 号	氏 名 (生 年 月 日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所 有 す る 当社株式の数
14	ほり ふく じ ろう 堀 福 次 郎 (1950年7月3日生)	1969年 4 月 大和ハウス工業株式会社入社 2004年 4 月 同社執行役員 東京支社集合住宅事業部長 2006年 4 月 同社上席執行役員 東京支社集合住宅事業部長兼集合住宅事業副 担当 (東日本担当) 2008年 4 月 同社営業本部集合住宅事業推進部長 (東日本 担当) 2010年 3 月 同社集合住宅事業担当 2010年 6 月 同社取締役上席執行役員 集合住宅事業担当 2012年 4 月 同社取締役常務執行役員 集合住宅事業推進部長 (東日本担当) 集合 住宅事業担当 2016年 4 月 同社取締役専務執行役員 集合住宅事業推 進部長 集合住宅事業担当 2017年 4 月 同社取締役専務執行役員集合住宅事業推進部 長 (東・中日本地区担当) 集合住宅事業担当 2019年 6 月 同社顧問 (現任)	— (—)
【社外取締役候補者とした理由等】 堀福次郎氏につきましては、不動産事業における会社経営等で培われた豊富なビジネス経験と幅広い見識等を当社の経営に活かしていただくため、社外取締役候補者といたしました。なお、当社は、堀福次郎氏を、東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出る予定です。			

- (注) 1. 各取締役候補者との間には特別な利害関係はありません。
2. 重要な兼職先である法人等と当社の関係
- ・ 柴原多氏がパートナー弁護士を務めております西村あさひ法律事務所・外国法共同事業と当社には取引関係がございますが、直近事業年度における取引額は当該事務所の年間総収入額の1%未満と僅少であります。
 - ・ 岩見博之氏が社外取締役を務めております株式会社ヤマタネと当社には取引関係がございますが、直近事業年度における取引額は当該事務所の年間総収入額の1%未満と僅少であります。
3. 上記「所有する当社株式の数」欄の（ ）内の数字は、2025年3月31日現在の役員持株会での持分であり、外数となっております。
4. 平本和生、山田隆持、堀内文子、柴原多、林文子、岡崎双一、岩見博之、堀福次郎の各氏は社外取締役候補者です。
5. 社外取締役との責任限定契約について
- ① 当社は、社外取締役が期待される役割を十分発揮できるよう、現行定款において、社外取締役との間で損害賠償責任を限定する契約を締結できる旨を定めており、現任の社外取締役である平本和生、山田隆持、堀内文子、柴原多、林文子の各氏との間に責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は5百万円又は法令の定める額のいずれか高い額であります。
 - ② 本総会にて平本和生、山田隆持、堀内文子、柴原多、林文子、岡崎双一、岩見博之、堀福次郎の各氏の再任及び就任が承認された場合には、同様の契約を締結する予定です。
6. 会社の役員等賠償責任保険について
- 当社は、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者（当社の取締役、執行役及び主要子会社の取締役、監査役）が負担することになる損害賠償請求がなされたことにより被る損害を、当該保険契約により填補することとしております。
- 候補者は、当該保険契約の被保険者に含まれることとなります。また、次回更新時には同内容での更新を予定しております。

取締役の候補者一覧

候補者氏名						当社における 地位 及び担当	当社取締役が有する知見・経験								
							企業経営	営 業 販 買 戦 略	物 仕 入	人財開発	IT・デジタル ビジネス	財 会	務 計	法 リ ス ク マ ネ ジ ム ン ト	海 外
の 野	じま 島	ひろ 廣	し 司	男性	再任	社内	取締役兼 代表執行役社長	●	●	●	●	●	●	●	●
ぬく 温	もり 盛	はじめ 元		男性	再任	社内	取締役兼 代表執行役専務	●	●		●		●		●
くに 國	い 井	ひろ 弘	ふみ 文	男性	再任	社内	取締役兼 常務執行役		●	●					
いし 石	はら 原	あや 彩	こ 子	女性	再任	社内	取締役兼 執行役	●	●	●		●			
やま 山	ね 根	じゅん 純	いち 一	男性	再任	社内	取締役兼 執行役				●	●			
はた 幡	の 野	ひろ 裕	あき 明	男性	再任	社内	取締役兼 執行役					●	●		●
ひら 平	もと 本	かず 和	お 生	男性	再任	社外 独立	社外取締役	●	●					●	
やま 山	だ 田	りゅう 隆	じ 持	男性	再任	社外 独立	社外取締役	●	●			●	●		
ほり 堀	うち 内	ふみ 文	こ 子	女性	再任	社外 独立	社外取締役					●	●		
しば 柴	はら 原	まさる 多		男性	再任	社外 独立	社外取締役						●		
はやし 林	ふみ 文	こ 子		女性	再任	社外 独立	社外取締役	●	●		●				
おか 岡	ざき 崎	そう 双	いち 一	男性	新任	社外 独立	社外取締役	●	●	●		●			●
いわ 岩	み 見	ひろ 博	ゆき 之	男性	新任	社外 独立	社外取締役	●	●		●		●	●	●
ほり 堀	ふく 福	じ 次	ろう 郎	男性	新任	社外 独立	社外取締役	●	●						

以上

<ご参考>

委員会委員就任予定者（2025年6月20日就任予定）										※委員長候補者														
委 員 会 名					氏 名															※は委員長				
指 名 委 員 会					※國井弘文、石原彩子 平本和生、山田隆持、林文子																			
監 査 委 員 会					※平本和生、堀内文子、柴原多、岩見博之																			
報 酬 委 員 会					※温盛元、野島廣司、幡野裕明、 平本和生、山田隆持、堀内文子、林文子																			

以上

株式会社ノジマ 株主総会会場ご案内図

日 時 2025年6月20日（金曜日）
午前10時（午前9時30分受付開始予定）

会 場 ランドマークプラザ5階 ランドマークホール
横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号 電話 (045) 222-5050



- 駐車場のご用意はございませんので、お車でのご来場はご遠慮願います。
- 開会時刻間際には会場受付が大変混雑いたしますので、お早めにご来場くださいますようお願い申し上げます。
- 株主でない代理人及びご同伴の方など、株主以外の方は株主総会にご出席いただけませんので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。
- 議決権行使をいただいた株主様には後日、心ばかりの品をお送りいたします。



見やすいユニバーサル
デザインフォントを
採用しています。